

AIDS文化フォーラム in よこはま2010

第17回
報告書

HIV/AIDSは
日々増えています。



テーマ 他人ごと??



開催：2010年8月6日(金)－8月8日(日)
主催：AIDS文化フォーラム in 横浜 組織委員会



<目 次>

プログラム一覧	・・・P4
1. 開会式 組織委員長あいさつ	・・・P6
2. オープニング企画 HIV/AIDSが他人ごと	・・・P7
3. 参加団体発表プログラム(必ずしも実施順ではありません)	
1日目(8月6日(金))	・・・P9
2日目(8月7日(土))	・・・P16
3日目(8月8日(日))	・・・P31
4. 全大会・閉会式	
「AIDS文化フォーラム in 横浜とわたし 他人ごと! ?から自分ごとへ」	・・・P40
5. 展示プログラム(1階展示会場)	・・・P42
6. 新聞で振り返るHIV/AIDS(~1994年)	・・・P52
7. フォーラム全体集計表	・・・P54
8. AIDS文化フォーラム in 横浜 17回の歩み -開催概要と経緯-	・・・P58
9. 2010AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち	・・・P61
10. 「AIDS文化フォーラム in 横浜」組織委員会規約	・・・P62
11. 参加団体名称・索引	・・・P63



● AIDS文化フォーラムin横浜とは？

1994年、横浜で開催された国際エイズ会議をきっかけに、市民の手で市民のために始まったフォーラムです。HIV/AIDSに関する様々な活動を行うNGO、NPO、学生、PWA/H、行政、個人が集まり、発表・展示・交流を行っています。たくさんの方々の温かい想い・ご支援により、「手弁当」の市民フォーラムも今年で17年目を迎えました。

● 「文化」の2文字

なぜAIDS「文化」フォーラムなのか？それはフォーラムがHIV/AIDSを医療だけの問題としてとらえるのではなく、広く文化の問題としてとらえることに重きを置いているからです。セクシャリティ、ジェンダー、セックス、若者、ドラッグ、学校、教育・・・私たちの生活＝「文化」とHIV/AIDSは深く結びついているのです。

● 報告書作成にあたって

フォーラム3日間の熱気を伝えたい！そんな思いから、報告書には来場者の声や会場の様子を伝える写真をふんだんに取り入れています。また、フォーラムでの出会いをきっかけに、それぞれの団体や個人がつながりを深め、活動が広がっていくという願いを込めて各団体の連絡先を掲載しています。この報告書を手に取って下さる一人ひとりが、それぞれの目的にあわせ、活用して頂ければ幸いです。



ひと
テーマ: 他人ごと??

*入場無料 *プログラムによっては、プログラム内容をより深く理解していただくため、対象者を限定するものがあります。

PEER えんみちゃんからのメッセージ では遠見才希子さんによる心に響くピアエデュケーションのライブかDVD上映があります。
(405号室:12:20~12:50 15:20~15:50)

部屋	10:00~12:00		13:00~15:00		16:00~18:00
8月6日・金	ホール	開会式 オープニング (ホール) HIV/AIDSは他人ごと?? 他人ごとだった私が..... 感染を告知されて..... <i>(プレイバックアーツ劇団)</i>	PEER えんみちゃんからのメッセージ	神様がくれたHIV (北山翔子) 恋愛でHIVに感染してから10年余、私の事は、結婚して、子供を持って、家庭を築くこと、いま、感じていることをそのまま伝えます。 保健師による性・エイズ教育の実践例 (大和保健福祉事務所 富岡順子) (厚木保健福祉事務所 佐野恵美) 神奈川県保健課による性・エイズ教育の実践例 「性感染症」が禁句の小学校エイズ予防教育 (北沢杏子 性を語る会) 「HIVは傷口からうつる」と小5・6年の保健教科書、はつきりと性感染症であり、予防はコンドームでと教える梅毒授業の実践。 観劇術による親子の教育プログラム (JOINT HEART) 思いのまま感じたことを伝えるために観劇術を用いたコミュニケーション方法を分かりやすく広める活動を行います。	PEER えんみちゃんか北山翔子さんからもらったメッセージ
	301 (90)				HIVの地域格差について 「ともに、生きるーまだ、他人ごとですか?ー」 (神奈川県健康危機管理課 HIVカウンセラー 岡本未帆) HIVを治療する医療機関が地域によって、格差が存在しているという問題があるのではなからぬか 若者目線のエイズ教育教材・ミズホとサトシ (高校生エイズフォーラムKANAGAWA) 教員・看護教諭・保健師の方必見! 見ればわかるエイズ予防教育教材! 活用術を考えよう!
	304 (60)	プレイバックアーツはニューヨークで生まれた台本なしの即興劇であるプレイバックシアターを「楽しみ・深め・広める」ことを目的に結成されたプロの劇団。プレイバックアーツがHIV/AIDSを他人ごとと思っている人に、あなたにインタビューし、その思いを、その場面を即興劇で再現します。語る本人は自らの体験を追体験し、観客は自らの体験のように疑似体験することで、なぜか深く感じている自分を発見する...心うごく不思議な感動体験の時間をすごしませんか。			若者に聞いて欲しい「生きる」トーク! Positive with HIV ~患者と医者との関係性を超越して~ (パトリック&神也) HIV Positiveだからこ生活き方もPositiveなHIVに学ぶ
	305 (60)				命を考える ~プレイバックシアターを使って~ (劇団プレイバックアーツ) 他者理解、自分自身の思いに気づく、コミュニケーションの手法としても注目されているプレイバックシアターを少し体験して頂きます。
403 (60)			それって デートDVなんじゃない?? (特定非営利活動法人エンパワメントかむがむ) 今、10代の間で起きている「デートDV」について一緒に考えてみませんか。		

ネットワーキング・TEAパーティ 8月6日(金) 18:15~19:15 301号室 入場無料

部屋	10:00~12:00		13:00~15:00		16:00~18:00
8月7日・土	ホール	赤ちゃんが教えてくれたHIV ~妊娠時の検査でHIV感染がわかって~ (石田心&岩室神也) HIV/AIDSは他人ごとと思っていたら...。感染告知から受け入れ、伝え、そして子育てに奮闘するまでを主治医と振り返ります。	PEER えんみちゃんからのメッセージ	宗教とエイズ Part 5 ~性・エイズ教育と宗教 キリスト教・仏教の場合~ (AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会) 性・エイズ教育を宗教はどうしているのか、いま、あらためて考えてみませんか。	PEER 人工妊娠中絶
	301 (90)	Peer Education ~心に響く性教育を~ 医学生からのメッセージ (遠見才希子) 飯島愛さんを見たくて参加した5年前のAIDS文化フォーラム in 横浜。その後、ピアとして全国で講演するようになった私の性教育を聞いてください。			セクシュアルマイノリティが過半数の社会作り ~学校・行政・ゲイニュースの取り組み~ (かむがむレインボーセンター-SHIP) エイズ対策を進める上で重要な性的マイノリティの理解について、行政・学校の取り組みを紹介しながら、これからの課題について考える。
	303 (90)	南アフリカでの体験から感じ、考え、学ぶこと (南アチャリティ実行委員) 第一回南アフリカチャリティコンサートを実施した経験、私の南アでの体験を踏まえ、第二回に向けてネットワークを広げたい		エイズミーティング『葉書のこともしやらないでね』 (薬害エイズを考える山の手の会) 薬害エイズの被害者から14年、ほとんどの若者が被害エイズを知らない現代、次の世代にどのように伝えていったらいいか考えます。	安心して働ける職場を目指して (NGO労働組合国際協働フォーラム HIV/エイズ等感染症グループ) ILO(国際労働機関)総会で採択されたHIVとエイズに関する史上初の国際条約から職場の事例を考える。
	304 (60)	中学生とつくる身近さへのコミュニケーション (横浜市立榎町中学校演劇部+H.I.Voice Act) 中学校演劇部の生徒たちと一緒に、ワークショップと意見交換で、「他人ごと、から自分ごと」を体験します。(学校への出演授業の再現)	エイズ	HIVと私たち (横浜市立榎町中学校演劇部、H.I.Voice Act) 横浜市立榎町中学校演劇部の生徒と、当日の会場からの参加者によるH.I.Voice 朗読劇場	性問題対策における保健師の役割を検討しよう! (PNY・性問題対策を考える保健師の会) AIDS含む性問題対策について保健師はどのように進めるか、様々な役割を持つ保健師の横のつながり強化等も含め検討する。

部屋	10:00～12:00	13:00～15:00	16:00～18:00	
8月7日・土	305 (60)	HIV/AIDS患者の高齢化と医療現場から見た課題 横浜市立大学附属病院 福祉・継続看護相談室 友田安政 ソーシャルワーカー 横浜市立市民病院 患者総合相談室 篠原直樹 ソーシャルワーカー (神奈川県健康危機管理課) HIV/AIDSとともに生きられるようになったということは、逆に長寿やHIV/AIDSはもろろんのこと、他の疾患による障害とともに暮らすこと。	女性とHIV感染症 (厚生労働科学研究エイズ対策研究事業和田班) どのくらい妊婦さんがHIV検査を受けてるの？検査後のサポートは？HIVに感染した妊婦さんから生まれた子供はどうなるの？	HIV/エイズの医療最前線 (横浜市立市民病院 感染症科 立川夏夫) 薬が進歩し、慢性疾患になったといわれているHIV感染症。しかし、様々な課題も見えてきています。
	306 (30)	SEXYなカフェ (チームサクラヤ) HIV感染者と学校教員らが、アットホームな空間で来場者と語り合う形のプログラム。ここでしか聞けない話。ここでしか話せない話も。	コンドームのCMを作ろう！ (HAATAS) 世界のコンドームのCMを見てもう！日本ならではのCMを来場者と共に考え、発表していく	Peer Education ～今、あなたに出会えて～ (星野貴泰) 看護学生による思春期のピアエデュケーション(仲間教育)、人とのめぐりあいによる性教育。
	403 (60)	小中高の「生きるための心の教育(性教育)」によるAIDS予防 (PNY・性問題対策を考える保健師の会) 教材導入による性感染症・人工妊娠中絶率を低下させた成功事例を紹介し、教育と地道な活動を模索する。	大切なものは何ですか？ ～子どもたちの性教育を考える～ (アジアの女性と子どもネットワーク) HIV/AIDSや性感染症が「他人事」？自分を、そして大切な人を守るために必要な生きるための性教育とは？	性教育はなぜ広がらないの？ 過去の研究動向の分析をもとにみんなで考える (エイズを伝えるネットワーク (TENCAD)) 性教育の必要性が言われながら、実践が社会の中で広がってゆかない理由をみんなで話し合うワークショップ。 「寝た子を起さずな」という表現に含まれているものを考える企画です。
	406 (30)	AIDSへの取り組み@タイ (横浜YMCA) 横浜YMCAがタイ・バンコクYMCAと取り組んでいるバヤオセンター(児童保護シェルター)とハッピーホーム(AIDS孤児ケア施設)の活動を紹介します。	ワトト・ドキュメンタリー (ワトト・ジャパン) ウガンダにおけるエイズ孤児支援「ワトト・チャイルドケア・ミニストリー」についてご紹介します。	南アフリカ共和国、タウンシップでエイズとともに生きる (ニバルレキレ事務局) ①HIVエイズ問題の現状はどうなっているのか。②タウンシップ(旧黒人居住地区)で一つのエイズ遺児家庭のことをとらえ、住民自生のエイズ遺児支援のプロジェクトが生まれ育ってきた経緯を報告。

ネットワーキングパーティー：8月7日(土) 18:30～ 中華料理屋 迎珍 内容：中華料理を食べながら交流
参加費：成人4,000円 未成年3,000円 定員：55名(チケットは8月6日より会場内事務局で販売)

部屋	10:00～12:00	13:00～15:00	15:15～16:30	
8月8日・日	ホール	特別企画 夜回り先生 ※ 事前申込制 (水谷修)	ホール 全体会・閉会式 AIDS文化フォーラム in 横浜 とわたし	
	301 (90)	恋とデートDV 全ては同じ始まりから (ウイメンズクリニック・かみむら 上村茂生) 全ての恋愛は一度初期のDVに陥ります。その後、仲良く付き合えるか、別れるか、DV問題に成るかは一重の判断なのです。	P E E R HIV/AIDS・性を語らないエイズ予防教育 (地域医療振興協会 岩室伸也) エイズ予防教育の目標の一つは「コンドームを使うこと」ではなく「コンドームが使えること」。HIVや性について語らなくてもエイズは予防できる？	他人ごと！？ から 自分ごとへ 司会進行：遠見才希子 (フォーラムとの出会いから今まで)
	304 (60)	朗読ワークショップ (県立横浜平沼高校+岡島龍彦 [H.I.Voice Act]) 学校への出陣と同じ様に、午後からの館内劇場のための事前ワークショップを、「リラックス・楽しむ・感じる」をベースに実施します。	え ん み ち ゃ ん か ら の メ ッ セ ー ジ 高校生による朗読劇場 (横浜平沼高校演劇部+岡島龍彦 [H.I.Voice Act]) 神奈川県立横浜平沼高校演劇部によるH.I.Voice 朗読劇場です。HIVに様々な形で出会った仲間たちの言葉から...	PHA・PWA・PLHIVA=People Living with HIV/AIDS 特別展示 新聞で探る HIV/AIDS(～1994年)
	305 (60)	エイズ教育の歴史に学ぶ ～フロア参加型エイズ教育反省&展望会～ (神奈川県立高校教員 安藤剛敏&岩室伸也) HIV/AIDSをめぐる状況は激変し、教科書も変わった。しかし、学校でのエイズ教育、講師の認識は変わっていない！？！？！エイズ教育を反省し展望します。	Youならどうする？ (AIDS文化フォーラムボランティアOB有志) 感染者・罹病者専門がコースのボランティアと、改めて若い世代の恋愛や性について語り合う。	展示プログラム出展団体 ◆ATAC in NARA ◆ABCD in NARA ◆アジアの女性と子どもネットワーク ◆アーニ出版・性を語る会 ◆エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ ◆カリタスジャパン HIV/AIDS デスク ◆神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課 ◆てのひら～人身売買に立ち向かう会 ◆NPO 法人子宮頸がんを考える市民の会 ◆ニバルレキレ ◆日本ハビタット協会 ◆(財)日本ユニセフ協会神奈川県支部 ◆横浜 AIDS 市民活動センター ◆横浜 YMCA ◆ワトト・ジャパン
	306 (30)	世界がもし100人の村だったら ～HIV・AIDSバージョン～ (YMCA ACT) HIV/AIDSの基礎知識、世界の感染者等の数を分かり易く伝え、ワークショップと学習会形式で理解を深めます。	Report from KENYA (ワイズユースクラブ横浜-Y3) アフリカでHIV/AIDSとともに生きる人々と共に働く若者 Clifford Omandi さんを迎え、写真を見ながら話を伺います。	
403 (60)	AIDS・人権教育素地づくり③ (PHILIP+ロージナの会) 佐野洋子「100回生きたねこ」から「Living Together」へ、当事者性という切り口から取り上げます。	人身売買への取り組みの5年間とこれから (てのひら～人身売買に立ち向かう会) 日本政府が国内の人身売買に取り組み始めて5年経つ今、何か変わら変わっていないのかを映像で探る。		

特別協力：一盤のお茶から (神奈川県立舞岡高等学校 茶道部)

展示場(6日(金)7日(土))休憩時間にお立ち寄りください。お待ちしております。

開会式

<組織委員長あいさつ>

第17回のAIDS文化フォーラムのテーマは、「^{ひとごと}他人事??」です。HIV/AIDSを見つめることによって見えるものはなんでしょうか。このAIDS文化フォーラムに参加することを通して、医療的な課題、また、感染に至る場合の社会的な課題、感染後の差別や偏見、開発途上国で感染の拡大と貧困の問題、性差別の問題、性と生のいのちを考える教育の問題、人の心を癒し支える宗教の問題など様々な課題や問題が透けて見えてきます。このフォーラムは、準備から当日の運営、各分科会の発題など、全て手弁当で行われ17年続いてきました。当事者に向きあう中で、「他人事(ひとごと)」から、「自分事」に変化した人々などが支えてきました。しかし、「当事者に関わりながらも、どこかで「他人事」になってしまうことあるかもしれません。そう簡単には、「他人事」が「自分事」には、なりません、このAIDS文化フォーラムは、長年、時間をかけて、多様な切り口で、「他人事」だったのが、自分に繋がりのある問題「自分事」なのだと気づく社会、共に生きる連帯する文化を形成しようとしてきたのだと思います。3日間という短い時間ですが、様々な分科会に出れば出るほど、「他人事」から「自分事」に自己変容する機会になると思います。他者の痛みや喜びが、自分の痛み、自分の喜びとなる文化をみなさんと共に、創っていきたいと思います。

組織委員長 田口努



横浜YMCA 「横浜青年」2010年9月号



エイズを「自分ごと」に 全国から3300人が参加してフォーラム開催



▲プレイバックーズによるオープニングイベント

今年で十七回目を迎えたフォーラムでは、「他人ごと?」をテーマに、教育、国際、患者、感染者への支援や医療など幅広い分野で約七十の講座、展示が行われ、

国内外においてHIV感染者、エイズ患者が増加する中で、市民の立場から幅広くエイズについて考えていくAID

DS文化フォーラム(同組織委員会主催、横浜YMCA事務局)が、八月六日(八日)にかながわ県民センター(横浜駅西口)で開

催された。

全国から延べ三千三百人が参加した。開会式では、組織委員長を務める横浜YMCAの田口努総主事が挨拶し、「これまで他人ごとであったことも、自分ごとに変えていく三日間として多様な課題を学び、それぞれがながつて何ができるかを考える機会としてください」と述べた。

オープニングイベントは、会場に集まった参加者のHIV・エイズに関する思いを劇団のプレイバックーズが即興で演じるというもので、妊娠してはじめてHIV感染がわかった女性の苦悩などが劇団員によって演じられた。フォーラムでは若者、教育、医療、国際等の視点から多様な発表が行われ、とくに若者や青少年を対象とした啓発教育についての講座が数多く開かれた。

AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会企画

◆オープニング HIV/AIDSは他人ごと??

～他人事（ひとごと）だった私が・・・感染を告知されて・・・

劇団プレイバックーズはプレイバックシアターを「楽しみ・深め・広める」ことを目的に結成された劇団。

演劇・教育・医療・社会活動等様々な分野で活躍している。

観客に、HIV/AIDSが自分ごとになった体験談を語っていただき、再現劇とした。

「赤ちゃんに教えられて」(3つのうち1つ紹介)
 ・妊婦健診に組み込まれている血液検査を受けHIV感染が判明。担当の産婦人科医からは十分な説明を受けないまま、「この子を産み育てられるのか」、「私自身が生きていてよいのか」との思いに、自分の身が何かに閉じ込められたような日々だった。その後、受診した拠点病院で主治医から「2人でも3人でも産めるよ」と言われ、心身が解放された。母子感染は免れて今がある。



来場者感想：

- 他人の体験を、自分のこととして感じられる不思議な体験が出来た。
- いろいろな立場の人の思いを知ることができて、とても良かった。
- 自分の気持ちを表現してもらうことは、とても気持ちが良いことだと思った。
- 短い時間で人の思いをくみ取り、劇にしていくことのすごさを感じた。
- 多くの方々から、現場のお話を聞かせて頂き、本当にありがとうございました。今後の活動に活かして参ります。
- プレイバックーズがすごかったです。気軽に来てしまったのですが、すごく勉強になりました(茨城県 10代 学生)
- 校長先生と友達と一緒に初めて来ました。即興で演劇するなんてすごいなあ…と思いました。素直に、1人ひとりが気負いすぎないように明るい希望の光を見つけてゆっくり考えていければいいと思う。自分事にしないといけないのは分かるけど、正直重いです。(神奈川県 10代 学生)
- HIVの感染のことやAIDSのことは全然知らなかったんですが、とても大事なことなんだなと思いました。とても貴重な事を教わりました。(神奈川県 10代 学生)
- 劇なのに、強く心にひびきすぎて、フラッシュバックしてしまいそう、すごいなあと思いました、迫力。後悔だったり、反省だったり、自分の中で色々な思いが出てきてしまいました。(長野県 20代 福祉関係)
- 演劇を初めてみました。自分の感情も演じてもらって、客観的にみてみたいです。(大阪府 20代 保健医療関係)
- 今日は話したいこと、演技してほしいことがあったけど手を挙げられなかったのでちょっと残念…。でも忘れた気持ちや思いを思い出せました。(群馬県 20代 学生)
- 演技力のある役者さんたちというのは、他者の経験や立場に入りこむプロなんだと改めて実感しました。他者の気持ちに入りこんで演技をするということは、その当事者が見つめるのを忘れていた気持ちを表に出してしまうことになるので、とっても配慮していかなくてはいけないなあと思いました。(神奈川県 30代 保健医療・教育関係)
- 本当に即興ですか、という驚きでいっぱいです。病の有無にかかわらず、心の問題という広意での共感の良さを再確認しました。(千葉県 30代 教育関係)
- えんみさんのプレイバック、私も性について伝える者として、スーツと入ってきました。とにかくすべてがスーツという感じでした。不思議ですが、とても感動しました。(埼玉県 30代 保健医療関係)
- 今年で3回目の参加です。毎年命の大切さとともに、共に生きていくことを強く感じます。石田心さんのお話をもう一度今年もうかがうことができ、感動しました。(千葉県 30代 教育関係)



◆神様がくれたHIV

主催：北山翔子



内容：恋人からHIVに感染した私。「神様がくれたHIV」を世に出してから10年。私の夢は、結婚して、子どもを持って、家庭を築くこと。新たに改訂、加筆出版した「神様がくれたHIV」と今の私の話を聞いていただきました。

来場者感想：

- 「神様がくれたHIV」は、自分と同じ保健師として仕事をしていた方のお話で、とても共感を得ることができました。HIV感染の不安や苦痛の思いを直接的にきくことができ、嫌な事とマイナスのイメージがあったのですが、HIV感染者は、一つの山をこえて、自分らしく頑張っ、前向きに過ごしているんだと理解しました。まだまだイメージが悪い疾患であるHIV/AIDSを、きちんと理解し、自分の中で受け入れることができよかったです。改めてHIVを勉強したいと思います。(茨城県 20代 保健医療)
- 素直で気負わないお話が、心に入ってきました。病気であってもなくても変わらないもの、人の存在を知ること、生きる意味等、改めて感性が思い起こされました。悩み考えた弱い自分を自分で受け入れ、それを人々にそのまま語れること、書けること…人々に支えられてきて、ご本人がとても強い方に成長されていると思います。(神奈川県 40代 保健医療)
- 北山さんがエイズに感染したことで、命の大切さ、生きることへの思いに変化があったこと、周りの人たちに愛され、たくさんの苦難を乗り越えていったと思うと、一つの苦難が、自分を成長させ、変えてくれるんだと思った。(神奈川県 20代)
- 同世代の女性として、ここまで話すのは辛いことだと思います。2時間ずっと話し続けるのは大変でしょう。北山さんは強い人だと思います。これからもご活躍を期待しています。(神奈川県 20代 NGO/NPO)
- 今回のテーマにあるように“他人事”になりつつあったので、生の声を聴くことが自分の中に現在継続している事象としてのHIV問題を意識させられて、うれしくおもう。(神奈川県 30代 会社員)
- 北山さんの生の声で本の内容を聞いてよかったです。(大阪府 30代 教育)
- 彼との生活楽しく大切にしてください。(東京都 60代以上 NGO/NPO)
- 感染告知から14年の一つ一つの出来事が生きることを実感するのにとても大切であったと感じられました。まだまだTVに出られるHIVpositiveの方はモザイクがかかっていたりします。早くこの会場のようにface to faceでお話できる、普通になればと思います。病気だからと四六時中考える必要も、もちろんないと思います。(神奈川県 20代 NGO/NPO)
- とても素敵な方だと思いました。北山さんのご両親の受け止め方、とても良いなあと思いました。そんな素敵なお陰で生まれ育った北山さんは、他のつながりの影響があるにしてもご両親のお陰でここまでできたのかな？うらやましいです。(長野県 20代)
- 北山さんがとても強く、優しく、輝いて、とても幸せなイメージを感じました。大変な経験をされているのに、話を聞いている私がとても元気をもらった気がします。ありがとうございます。(神奈川県 20代 保育園)
- お話を初めて聴いたのが10年前です。いつも自然体で多くのメッセージを頂きます。(この10数年ずっと変わらないですネ)命を輝かせることのできる生き方がしたいなあ…と思いました。何よりも この両親の子でよかったと言ってもらえる両親はしあわせだと思いました。ぜひ、お母さんになってください。(広島県 40代 保健医療)
- 年々魅力が増していく感じがします。心に響くメッセージをありがとうございます。お体を大切に！これからも楽しみにしています。(群馬県 40代 保健医療)
- 文化フォーラムで北山さんのお話をうかがうのは二回目になります。北山さんにローズさんや知人がかけてくれた言葉がとても素敵でいいなあと思いました。(埼玉県 40代)

一つの苦難が、
自分を成長させ



連絡先：紳也's HP: <http://iwamuro.jp/>から北山翔子さんの講演を申し込みます。

◆保健師による性・エイズ教育の実践例

主催:大和保健福祉事務所 保健予防課 富岡順子
厚木保健福祉事務所 保健予防課 佐野恵美

内容:神奈川県の大和保健福祉事務所では、中学校や高等学校等を対象に「青少年エイズ・性感染症予防講演会」を実施しています。保健福祉事務所の保健師が、それぞれ実際のプレゼンテーションを再現しながら、講演で留意している点や楽しく、分かりやすく教育するために工夫している点などを生徒の反応を交えながら紹介しました。



来場者感想:

- 年代に合わせた性教育をいかに伝わりやすく伝えるか、中学生・高校生の立場を考慮して講座を組み立てることの必要性を感じました。
- 対象に合わせた残る内容になるよう考え抜かれているところが人を引きつけているのだと思う。自分たちのことを本当に考えて向き合ってくれるというメッセージは子どもに届くと思います。参考になるエッセンスがたくさんありました。

連絡先:神奈川県大和保健福祉事務所 保健予防課 富岡順子

〒242-0021 大和市中央1-5-26

Tel.046-261-2948 内31~32 E-mail: j.tomioka.d8g@pref.kanagawa.jp

神奈川県厚木保健福祉事務所 保健予防課 佐野恵美

〒243-0004 厚木市水引2-3-1(厚木合同庁舎内)

Tel.046-224-1111 内3240 E-mail: sano.6hk@pref.kanagawa.jp

自分たちのことを
本当に考えて
向き合ってくれるという
メッセージは
子どもに届く

◆HIVの地域格差について

「ともに、生きる –まだ、他人事ですか?–」

主催:神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課
HIVカウンセラー 岡本未帆

内容:特別偏見を持つ病気でも、腫れ物に触るように特別扱いする病気でもなく・・・地域の中で生活する患者さんと、受け入れる医療者側のそれぞれの地域ごとの温度差や特徴を盛り込みながら、現場で聞く患者さんたちの声などを元に、神奈川県でのHIVカウンセラーがご紹介しました。「ともに、生きる」とは、病気を受け入れ、共存しながら生きていく患者さんご自身、そして患者さんを囲む家族やパートナー、友人など周囲の人たちと、共に生活していく上での関係・・・そんな意味を含んでいます。保健医療、教育関係の方をはじめ、学生さんや、患者さんご自身まで幅広く出席していただき、その後の質疑にも積極的に参加して頂きました。急遽変更したタイトルのせいで、一部来場者の方の混乱を招いてしまったことを、改めてお詫びいたします。

来場者感想:

- 患者さんたちからの実際の問題点や困った事例などをいくつか聞くことができ大変参考になりました。
- 医療機関として、患者さんに配慮しなければならないことなど、事例を出してお話いただき、参考になりました。
- 現場の様子を伺えてよかった。表の看板にあった地域格差の話が少なく、残念。



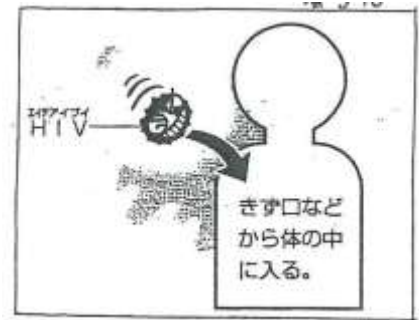
連絡先:神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課 岡本未帆

〒231-0021 神奈川県横浜市中区日本大通1 Tel: 045-210-4791

◆「性感染症」が禁句の小学校エイズ予防教育

主催：「性を語る会」（代表 北沢杏子）

内容：「エイズはどうしてうつるの？」と質問されたら「HIVはきず口などから体の中へ入ることです」と教員は答えなければならない。小学校5・6年生の『保健』教科書にそう書いてあるからだ。教科書検定前の解説文は「HIVは感染している人の血液や精液、ちつで出される液などが、ねんまくやきず口などから入ることです」とだったが、検定によって上記傍線部を削除と指示され、「HIVはきず口などから体の中に入る」となった。イラストも、HIVが矢印で肩から入る図になっている。教師用指導書には「HIVの感染経路には①血液感染、②性的接触、③母子感染があるが、この授業では児童の日常生活場面で考えられる血液感染(のみ)を理解させる」と明記されており、私の分科会でも、教員や出張授業を行っている保健師らが、「性感染症」であることを教えられない無念さを訴えた。中学生の10%、高校生の45%が性体験を持つとのデータがある今日、なぜ「性交」「性行為」が禁句なのか？参加者の感想文にも「こんな教科書では年々HIV感染者が増えるのは当然」と憤慨しているものが多かった。ちなみに来年度からの改定教科書のイラストは、指先からHIVが入り「HIVが血液などを通して体の中に入る」と解説されている。



今は何とかして
教えられる
切り口を探し

来場者感想：

- 私が小学生や中学生だった頃はコンドームの付け方の授業はしませんでした。今日、初めてこのような講演を聴かせていただき、大変勉強になりました。私は現在、看護学校に通っています。将来もしかしたら性感染症の事を教える立場になるかもしれません。そのときに、今日学んだ正しい知識を教えることでエイズが広まることの予防になると思いました。現在、CMやテレビなどで、エイズの増加が問題だと訴えられています。ですがそれと矛盾して小学校の授業では教えていません。これではエイズ増加を防げる訳がない。と感じました。(学校で 埼玉県 20代 学生)
- 中学校に勤めています。事実を教えられない悔しさ、とても大きいです。それでも私は事実を伝えたいので、今は何とかして教えられる切り口を探しています。大変勉強になりました。パワーをたくさんもらいました。ありがとうございました。
- 出来る限りずっと、ずっと続けてほしいです。(昨年も来たので! 北海道 20代 教育関係)

連絡先：アーニ出版・性を語る会

〒158-0097 東京都世田谷区用賀3-5-6

Tel: 03-3708-7326 Fax: 03-3708-7324

E-mail: taira@ahni.co.jp



◆腹話術による親子の教育プログラム

主催：JOINT HEART（畠山雅行・中井幸永・人形の「ちえちゃん」）

思いのまま感じたことを伝えるために腹話術を用いたコミュニケーション方法を分かりやすく広める活動をおこないます。

内容：

[目的]①健康腹話術の普及②親子の教育プログラム

[対象者]①小学生②中学生③青少年④高齢者⑤その他～幼児・妊婦など

[ねらい] ①子供の「なぜ？」はママとの会話が嬉しい・楽しいからです。子供を正しく理解して子供の事を知ろうと努力する態度を示してあげる。

[プログラム] 訊く・聞く・聴く

①教育プログラムvol.1：子供の「なぜ？」の答え方。

②教育プログラムvol.2：3つの「きく」ask・hear・listen
（訊く・聞く・聴く）きく体験学習。

③わらってげんきになろう。みんなで腹話術にチャレンジ！！

[評価] ①アンケート：総計16名回収。10代11名・20代2名

・30代2名・不明1名 参加：生徒・学生・教育福祉関係・医療関係者。

評価は「楽しかった」6名。「わかりやすかった」6名。「難しかった」2名。

来場者感想：

- 人形は意外と大きくて重たかった。腹話術が体験できて興味がわいた。新しいコミュニケーション方法を知った。
- 子供の「なぜ？」に対して答える時は「正解」ではなくて答える事が大切だと知りました。
- 「きく体験学習」では相手のいろんな聞く態度(腕と足を組んで後ろのめりに座る・相手と視線を合わさない・表情は出来る限り変えない等)を実践できてよかった。
- 参加型がよい。
- 共通点のない人との会話を成立させるには「歩み寄り」が重要とわかった。
- 相手の状況を考えながら話しやすい環境作りが大切である事を確認した。
- プログラムの時間は適切でした。

[まとめ] HEALTHY HAPPY FORUM

参加者に人形との会話を実際に経験してもらいました。今回はきく体験学習を取り入れて腹話術を広げました。来年もがんばって参加いたします。

連絡先：代表者氏名 畠山雅行

Fax: 0743-78-9841 E-mail: m-hatake@m4.kcn.ne.jp

話しやすい
環境作りが大切



◆それって、デートDVなんじゃない??

主催：特定非営利活動法人エンパワメントかながわ

神奈川県を中心に、CAP(子どもへの暴力防止)プログラムの提供を主な活動とし、デートDV予防プログラムなどの人権啓発プログラムを開発し提供しています。

内容:今、10代の恋人たちの間にもDVがおこっています。恋人からの暴力を「デートDV」といいます。身近にデートDVが起きた時、周りのおとなとしてできることを考える参加型ワークショップを開催しました。参加者は、当団体が開発した「エンパワメントかながわデートDV予防プログラム」を体験し、教職員・学生・保護者など様々な立場として意見を交わす、賑やかな2時間になりました。



小さな芽のうちに
DVを摘み取りたい

来場者感想:

- 今日のワークショップに参加して、高校生の中でデートDVが多いことがわかりました。また、高校生に向けたプログラムを各高校で行うことで、デートDVの被害者に対する対応の仕方などを学ぶことで、周りからの支援(デートDVを無くしていくこと)ができるようになるのだと思いました。デートDVを減らすことでDVも減る。そして、このデートDVのワークショップから暴力は絶対いけないということを学べると思いました。
- 勉強になりました。小さな芽のうちにDVを摘み取りたいと思いました。まずは、「デートDV」とは何かを子どもたちに知らせていきたいです。実際に高校生にワークショップをしているところも見に行きたいです。

連絡先:

特定非営利活動法人エンパワメントかながわ
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-9-22 日興パレス横浜701号
Tel: 045-323-1818 Fax: 045-323-1819
(電話受付: 月・水・金 10時~16時)
E-mail: kanagawa-cap-miracle@isis.ocn.ne.jp
団体サイト <http://www15.ocn.ne.jp/~empkng/>
デートDV予防啓発サイト <http://www.1818-dv.org/>
デートDV予防啓発携帯サイト <http://www.1818-dv.org/m/>

1994年8月11日 読売新聞



にぎわう「民間会議」



一般公開された会場の様子(中)

超満員の催しも

市民に広がる理解の輪

【横浜】「にぎわう民間会議」が主催する「デートDV予防ワークショップ」が、10日(土)午後2時から、横浜市の「日興パレス横浜」で開かれた。参加者は約100名に達した。ワークショップは、デートDVの現状や被害者の苦しみ、加害者の心理などについて、講師の講話やグループワークを通じて理解を深めた。また、ワークショップの開催地である「日興パレス横浜」のスタッフも、ワークショップに参加し、デートDVの現状や被害者の苦しみについて理解を深めた。ワークショップの開催地である「日興パレス横浜」のスタッフも、ワークショップに参加し、デートDVの現状や被害者の苦しみについて理解を深めた。

ワークショップは、デートDVの現状や被害者の苦しみ、加害者の心理などについて、講師の講話やグループワークを通じて理解を深めた。また、ワークショップの開催地である「日興パレス横浜」のスタッフも、ワークショップに参加し、デートDVの現状や被害者の苦しみについて理解を深めた。

ワークショップの開催地である「日興パレス横浜」のスタッフも、ワークショップに参加し、デートDVの現状や被害者の苦しみについて理解を深めた。

◆PEER えんみちゃんからのメッセージ

主催：遠見才希子

聖マリアンナ医科大学6年生。Peer(仲間)の視点で自分自身が中高生のときに聴きたかった性の話を全国300箇所以上で語っている。

内容:医学生による休み時間講座。全5回。

①DVD上映:「自分と相手を大切にすると? ~えんみちゃんからのメッセージ~」(発売元:日本家族計画協会)を上映。

②えんみちゃんが北山翔子さんからもらったメッセージ:恋人からHIVに感染した北山翔子さんをゲストに迎え、講演者として活動する立場の悩みや恋愛についてトーク。

③エイズ ④人工妊娠中絶 ⑤性感染症

最低限必要な知識を伝えつつ、自分の経験などを自分の言葉で語る講演の一部を紹介。



来場者感想:

- ピルを飲んでいるからコンドームをせずにSEXしてしまっています。もう一度彼氏と話し合いたいです。(10代 東京都)
- 自分の思いを素直に伝えられている様子が一生懸命で聴いて心に響きます。現役の男子高校生が聞きに来ていることはすごいなーと思った。そうした関係や環境(雰囲気)の作り方がとても良いと思いました。(20代 神奈川県)
- 私も何か始めたいと思いました。看護師がゴールだと思っていた・・・。(埼玉県)
- エイズ教育は一方的になりがちですが、若者が共感できる内容でPeerの意義を考えさせられました。(30代 千葉県)

もう一度彼氏と
話し合いたいです

連絡先: 遠見才希子 ブログ「えんみちゃんの性教育」<http://ameblo.jp/emmskk/>

◆命を考える

~プレイバックシアターを使って~

主催：劇団プレイバックーズ

プレイバックシアターを「楽しみ・深め・広める」ことを目的に結成された劇団。演劇・教育・医療・社会活動など様々な分野で活躍している。

内容:お互いを知り合うゲーム

即興による再現ドラマ/命を考えた体験談(語られた3つのストーリーのうちの1つ)

「私の進む道」

実習で出産の場面に立ち会う機会に恵まれた。現場では役に立たず、怒られてばかりだった。赤ちゃんが出てきた時、感動で涙が止まらなくなった。そんな私に助産師さんは「産婦人科においで」と言ってくれた。迷いが消え、この道に進もうと決めた。

タイで人身売買帰国女性を対象に行ったワークショップと公演の報告

小学校でのいじめ防止プログラム公演の報告



来場者感想:

- 笑いあり、涙ありの素晴らしい時間だった。来場者を自然に巻きこむ進め方も素晴らしかった。
- 相手(自分も含めて)を受けとめてくれているということで、命を感じた。

連絡先: 劇団プレイバックーズ (<http://www.playback-az.com/>)

1994年8月4日 日本経済新聞



1994年のパト

HIVポジティブでも
前向きに考え、
生きる姿

◆若者に聞いて欲しい「生きる」トーク！

Positive with HIV

～患者と医者との関係性を超えて～

主催：パトリック&紳也

内容：HIV positiveのパトリックと彼の主治医である岩室紳也医師。二人はAIDS文化フォーラム in 横浜が始まった時からHIV/AIDSと共に生きてきた。恒例の、「生きる」をテーマに生徒に聞かせたいトークを再現しました。

来場者感想：

- とても参考になりました。HIV感染には、知識の教育だけでなく、日々の生活の中で大人が子どもの意識を育てていくことが大切ということがわかりました。(埼玉県 20代 保健医療)
- 普段、何気なく考えている考え方や、同じ考え方をされている部分があってとても心強くなりました。いろんな言葉が身体にしみわたりました。(大阪府 20代 保健医療)
- とっても楽しかったです。プチプチのチョコを毎日飲むという体験を以前お話されていたと思いますが、精神疾患の担当の保健師さんたちと試してみました。一ヶ月全部忘れずにできたのは36人中0人。パトリックって凄いな～と思いました。(長野県 20代)
- 「とりあえず」「・・・でいい」という言葉は口癖のように使っています。自分の生活に疑問を持つという「自ら選ぶ」ということをしていきたいと思いました。(神奈川県 20代)
- とっても、自分自身が前向きになれた！！今日の話をして、とても良かったです。(神奈川県 20代 教育)
- HIVポジティブでも前向きに考え、生きる姿にとっても勇気づけられました。(愛媛県 30代 保健医療)
- すごく楽しく話を聞くことができたので良かったです！！来年も来たいです。(神奈川県 20代 学生)
- パトリックと岩室先生の会話の中で、様々な生きていく上でのアドバイスを頂けました。まさに“生きる力”です。本当にありがとうございました。(神奈川県 40代 保健医療)
- パトリックさんに元気がもらえました。楽しい話、自己決定、責任の話。いろいろ聞けたためになりました。ありがとうございました。(愛知県 30代 保健医療)
- 今年もパトリックさんに会えてよかったです。楽しい時間とたくさんの刺激をありがとうございました。(北海道 20代 教育)
- 何回か連続してこのプログラムに参加していますが、今年もパトリックさんの元気なトークを聞くことができ、私も元気になりました。(30代 教育)
- 医者、歯医者にこだわる。コンドームの使用について。正確な知識をもつことの大切さ、薬物の使用について。自分で考えて責任を持つ。・・・がよい。後悔はしない。ポジティブシンキング！(神奈川県 50代)
- 生きている時、楽しくor楽しくなく過ごすのか。考えさせられました。(神奈川県 20代 NGO/NPO)
- パトリックがあいかわらず良かったです。(神奈川県 30代)

連絡先：

岩室紳也 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館15階公益社団法人地域医療振興協会
ヘルスプロモーション研究センター

Tel: 03-5212-9152 Fax: 03-5211-0515

紳也'sHP: <http://iwamuro.jp/>からパトリックへの講演の申し込みができます



◆若者目線のエイズ教育教材・ミズホとサトシ

主催：高校生エイズフォーラムKANAGAWA

高校生エイズフォーラムに関してきた高校生・専門学校生・大学生を中心に、HIV感染防止教材の開発と同世代の視線からHIV/AIDS感染防止の啓発活動を展開する団体。

内容：自作した若者目線のエイズ教育教材「ミズホとサトシ」を鑑賞後、4グループに分かれ意見交換した後グループで話し合われたことを発表した。来場者は27人と決して多くないが「毎年楽しみに参加しています」と遠方からも臨席し「ミズホとサトシ」



(高校生でもHIVに感染してしまうことが珍しいことではない状況下で誕生したストーリー)の完成版を待ち望む声が多数寄せられた。

来場者感想：

- 高校生の目線で作られたDVDはととても好感がもてました。長い時間をかけてつくられたのがよくわかりました。ぜひ、高校生にみてほしいと思いました。内容もですが…高校生がこんなのつくれるんだ…自分達もつくってみようと思ってほしいです。(広島県 40代 保健医療関係)
- 高校生の取り組みを知ることができてよかったです。完成品(DVD)楽しみにしています。頑張ってください。(神奈川県 30代 保健医療関係)
- 高校生が関心高く作っていて素晴らしいと思いました。作ってから“どう使えるか”ではなく、「何を伝えたいか」ポイントをしぼって、15分位のショートストーリーを作っていくとよいと思います。(新潟県 20代 保健医療関係)
- 高校生が3年以上も勉強会をもち、作成したDVD見せていただき感激です。より良いものが完成できるとすてきですね！(60代以上 教育関係)
- 高校生目線の教材ということと、全て高校生自身が作ったところが強烈でした。これを見た高校生の反応や感想が気になります。(茨城県 20代 学生)
- 高校生が絵も内容も考えて製作したことが素晴らしいと思います。県の予算がなくなってしまったことは、本当に残念です。機会があれば、声をあげていきたいです。(神奈川県 50代 教育関係・NPO)
- 教材としては長すぎるかな。今日の意見等参考に完成版期待しています。今までの作業大変だったと思います。頑張ってください。(新潟県 50代)

高校生が
絵も内容も考えて
製作したことが
素晴らしい

連絡先：高校生エイズフォーラムKANAGAWA事務局 担当 二階堂奈々子

E-mail: aids_forum_kanagawa@yahoo.co.jp





◆赤ちゃんが教えてくれたHIV

～妊娠時の検査でHIV感染がわかって～

主催：石田心&岩室紳也(厚木市立病院)

内容:妊娠時にHIV感染が判明するも、「産めるのか」、「自分はこの後どうなるのか」も知らされないまま紹介状を渡される。インターネットで探せども、欲しい情報、同じ境遇の方の声は見つからず、不安なまま拠点病院を受診。そこで主治医から「2人でも3人でも産めますよ」と言われ、前向きに出産し、育児、仕事に励んでいることを同じような境遇の人に伝えたくペンネームで登壇。

来場者感想:

- 石田さんの話を聞いて、対応について考えさせられました。(告知されてから基幹病院に行かれるまで、大変だったと思います)石田さんの対応を自分のものとして対応できたらと思いました。これからも伝えて欲しいです。(熊本県 50代 保健医療)
- HIV感染した方で、妊娠、出産、育児をしている体験談を初めて聞くことができ、とても勉強になりました。「子どもが産めます」という希望の言葉を、告知の際に伝える事の大切さを知る事ができました。ありがとうございました。(愛媛県 30代 保健医療)
- 石田さんの体験談を聞いていて、神様は乗り越えられない試練は与えないと聞いたことがあります。本当にそうだなと感じました。周りの支え、何より子どもが守ってくれたから強く生きようとする石田さんに感動しました。また、話を聞いて 自分もAIDSに関して知らないことが多いと改めて感じました。(神奈川県 20代 教育)
- とても重いものを受け取りました。同時に暖かいものをたくさん頂きました。石田さん、ほんとうにありがとう、生きてくれてありがとう。子育て、お仕事、これからもがんばって下さい。二人目もチャレンジ！待ってるよ～。(神奈川県 50代)
- 大変勉強になりました。(神奈川県 50代 市議会議員)
- HIVに感染している方の体験を聞いたのは初めてでした。看護師として、またこれから妊娠を希望する女性として興味をもってきかせて頂きました。1つ1つの言葉が重みがありまたそれを笑顔で語る石田さんの姿に強さを感じました。主治医との関係もトークに表れていました。どうぞ、これからもお元気でいろいろな人にストレートな声を伝えていって欲しいと思います。(神奈川県 20代 保健医療関係)
- 高校の養護教諭です。社会の価値観が変わらないとしてもこれからはHIVと共生していく社会にならざるを得ないと思います。そうなった時、“自分”が感染者になるかもしれないということと同時に、パートナーが、友人が、未来の子どもが、感染者になる・なっているかもしれない。そうなった時、君たちはどうするという事を考えさせていく教育がになう役割の1つだと改めて思いました。(神奈川県 20代 教育関係)
- 私はAIDSについての知識はまだ十分ではないのですが、感染する病気、死に至る、予防法がないというイメージがありました。けれど、今回、石田さんの実体験を聞いていく中できちんとした知識を学んでおく必要があると感じました。石田さんが、診断を受け入れるまでの気持ちを聞く中で、岩室先生から「産めるよ。」という一言が嬉しく、安心できたと言っていて、周りの人たちの関わり方もとても大切なことだと思いました。貴重なお話を聞かせて頂きありがとうございました。子育てこれからも頑張ってください!!(神奈川県 20代 教育関係)
- 母子感染の実態を始めて詳しく知る機会となった。これから関心を持って理解を深めていきたい。(東京都 40代 報道)
- 素晴らしいご主人と力を合わせて子育てをがんばってください。一緒にがんばりましょう。同様の体験をもつ一人より。(神奈川県 30代)
- HIV感染した方で、妊娠、出産、育児をしている体験談を初めて聞く事ができ、とても勉強になりました。「子どもが産めます」という希望の言葉を、告知の際に伝える事の大切さを知る事ができました。(愛媛県 30代 保健医療関係)

連絡先: 紳也's HP: <http://iwamuro.jp/>から石田心さんの講演申し込みができます。

石田心のブログ
～まあい☆ころ～
<http://ameblo.jp/shin-ishida/>

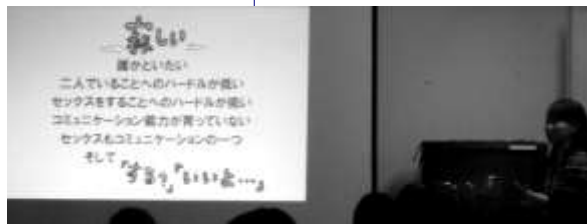
子どもが産めます



◆Peer Education～心に響く性教育を～ 医学生からのメッセージ

主催：遠見才希子

聖マリアンナ医科大学6年生。Peer(仲間)の視点で自分自身が中高生のときに聴きたかった性の話を全国300箇所以上で語っている。



内容: 中高生向けの講演に解説をまじえ行った。来場者全員で感染広がるゲーム。男性に‘子宮くん’に扮してもらい緊急避妊ピルなどを説明した。知識の説明だけでなく、自分がHIV検査を受けて気づいたことや産婦人科実習で感じた気持ちや中絶をした友人の経験などを語った。

来場者感想:

- 説得力がありました。みんながえんみちゃんになれるとは思いませんが、あとに続く医大生、看護学生などが出てくれて中高生全てがピアエデュケーションを受けられるようになるとよいと思います。(50代 神奈川県)
- いつもながらパワフルで魅力的な実践の発表が素晴らしかったです。何度も話していると思いますが、事例やその時のシーンを思い出して本音で語ろう、忠実に表現しようとする姿が勉強になりました。(40代 山梨県)
- 男の子を授かった今、性の問題は今までより身近に感じてます。子どもたちが悲しい思いをしないように、親として伝えるべきこと、子ども自身が考えるべきことをみきわめていきたい。(20代 神奈川県)
- えんみちゃんみたいなキャラとかカリスマ性がなきゃ受けないのでは・・とっていましたが、自分の気持ちを正直に、相手の気持ちになって話せばいいのかなと思いました。(30代 神奈川県)

連絡先: 遠見才希子 ブログ「えんみちゃんの性教育」<http://ameblo.jp/emmskk/>

本音で語ろう、
忠実に表現しよう

◆南アフリカでの体験から感じ、考え、学ぶこと

主催：南アチャリティコンサート実行委員長 韓徳

内容: 世界最多の570万人のHIV感染者。HIVのために毎年35万人死亡。親を失ったエイズ遺児が140万人いる国です。今年サッカーのワールド・カップも開催され注目を集めました。その南アフリカの病院で、実際にエイズ患者と暮らした日本のボランティアがチャリティー・コンサートを企画し、6月20日(日)に開催。すべて手探り、手作り、手弁当のコンサートの収益全額を南アフリカのエイズ患者および日本でHIV感染と判ったアフリカ人患者を支援する事業に寄付しました。そのコンサートを皆様にお伝えしたくて、今回フォーラムに参加しました。ある学校の先生がビデオを撮って、生徒さん達に見せてくれるという約束をして下さいました。AIDS問題も、人種や人権を超えた、同じ人間として対他する必要性があると1人でも多くの方が気付いてくれたらと願います。

来場者感想:

- 実際に現地で生活して見てきたこと、体験してきたことを1人でも多くの日本の方に知ってもらうことは大切ですね。その手段としてコンサートを開くということは人脈・エネルギーともボスコさんはスゴイ!!



連絡先: 南アチャリティコンサート実行委員会 韓徳(はん とく)

〒156-0044 東京都世田谷区赤堤3-20-1 カトリック赤堤教会

Tel: 03-3321-0019 Fax: 03-3328-4636 E-mail: southafrica.charity@gmail.com

http://www7a.biglobe.ne.jp/~akatsutsumi_catholic/

◆中学生とつくる身近さへのコミュニケーション

主催：横浜市立榎町中学校演劇部+H.I. Voice Act

HIV/AIDSに影響を受けた様々な人たちの言葉を朗読することから、HIV/AIDSを自分自身の身近な事柄としていく活動

内容：中学校の演劇部生徒をゲストに迎え、一般参加者とともに、普段、H.I.Voice Actが学校で行っている朗読ワークショップを実施した。

○アイスブレイク・自己紹介(椅子席のサークル内で、誕生日順に席替え→生まれた地域順に北から南へ席替えし順番に)・仲間探しゲーム

○朗読・輪読(H.I.Voice誌の中から抜粋した文章「台本:ようこそ私たちの世界へ」を輪になって順番に朗読)・読んで聴いての感想のシェア

・ようこそ(ひいらぎ)・僕がH.I.Voice誌を作ろうと思った理由(たんべ)・一人にならないで(アルファ)・思うこと(ヨーダ)・カニーヒア(いもうと)・comoredeコモレード(CALLA)・HIV感染の子をもつ親の苦悩(ナタデココ)・宇宙人ピッピから君へ(ピッピ)・今年一番うれしかったこと(ヨーダ)・私はボランティアをしています(TODAY)・たんべさん&H.I.Voice編集局さんへ(ナカニシマイ)・わたしのカミングアウト(ひまわり)・手紙(M君)・手紙(M君のお父さん)・親しき人たちへ(CALLA)・エイズを100倍楽しく生きる方法(アルファ)・もうひとつのエイズを100倍楽しく生きる(ワイルド)・はだし(ひまわり)・恋人にエイズの話ができますか?(ドイチェ)・「空」(そうた)

○発表の準備・午後の発表に向けて出演者の確認・配役決めと進行確認(午後1時からの「HIVと私たち」304室で朗読劇場)

来場者感想：

- 色々思うことや考えさせられることもあって、有意義な時間を過ごせた。(神奈川県 10代 学生)
- HIV感染者や、その周りにいる人たちの生の声を聞いてよかった。(神奈川県 10代 学生)
- とてもエイズを身近に感じた。感染者の言葉を聞く機会として、すごくよかった(神奈川県 10代 学生)
- エイズの事、全く分かりませんでしたが、実際の経験者の人の話を直接ではないけど聞いて良かったです。(神奈川県 10代 学生)
- 言葉を伝えるにあたって、いろいろ考え よい経験になりました。普段読んでいる文章も、こうして声に出すことで、自分の血となり、立ちあがってくる。(神奈川県 20代)
- HIV感染者やその家族の手紙の朗読は、その内容をよく理解した読み手の方々の思いがこもっていて、良かった。中学生がこのような方たちの心の声に触れることは、日常ではあまり無いと思います。私も中学校に勤めているので、今回聞いたことを生徒たちに伝えていきたいと思います。(福島県 20代 教育関係)
- 中学生の心に響く活動だなあと。HIVに感染した人との関わり方を自分の心で覚えることができる貴重な体験だと思う。(神奈川県 40代)

● 具体的に何をするのか知らずに参加させていただきました。係の方、ボランティアの方に大変お世話になりました。ありがとうございました。自分自身の問題として捉え、感心を持ち続けたいです。(神奈川県 50代 教育関係)

連絡先：岡島龍彦

E-mail: tatu-hiko@mpd.biglobe.ne.jp

Tel: 070-6656-8860

中学生の心に響く

活動だなあ



◆HIVと私たち

主催：横浜市立榎町中学校演劇部+H. I. Voice Act

内容：朗読劇場「ようこそ私たちの世界へ」

意見交換(読み手と観客が輪になって)

ほめ言葉のシャワー・全員が、自分に送る「ほめ言葉」を紙に書く→集めて再配布→誰かの「ほめ言葉」が手元に→二人ずつ輪の中央に出て相手に「ほめ言葉」を送り合う

- ・いつもがんばってるね そのちょうし!! ・とにかく 大好き ・いつも ありがとう ・良かった
- ・あなたといると ほっとする ここに居てくれて 良かった ・よく頑張ったね ・信じてる
- ・これからも頑張っていってね♪ ・あなたに会えて うれしいです ・よく頑張ってるね
- ・頑張っているね!! ・たよりになるね～ ・私はあなたを愛しています ・まつげ長いね
- ・あなたがそばに いるだけで、安心できる! ・良い親に育てられたんだね

ほめ言葉を贈って、受け取っての感想交換

参加者同士で様々な経験と知識のシェア(アフリカでのボランティア体験や、薬剤師として薬の現状など)

来場者感想：「中学生とつくる身近さへのコミュニケーション」18頁参照

連絡先：岡島龍彦

E-mail: tatu-hiko@mpd.biglobe.ne.jp Tel: 070-6656-8860



あなたといると

ほっとする

ここに居てくれて

良かった

◆Peer Education

～今、あなたに出会えて～

主催：高崎健康福祉大学看護学部生 星野貴泰

自分自身の経験からピアエデュケーションを中学・高校で行っています。

内容：高校時代に聖マリアンナ医科大学の遠見才希子さんのピアエデュケーションを受けて「自分もピアをやりたいと思ったその時から今日までを話しながら、自分にしか語れない性と、進路の大幅な変更や友人関係の悩みなどの思春期に抱えがちな生の話を話しました。今までは大学のピアサークルとして高校や中学に出かけていましたが、9月に初めて単独での講演を依頼され、来場者のみなさんに直接、発表のコツや内容についてのアドバイスをいただく場にさせていただきました。

来場者感想：

- 想いがたくさん詰まっているのだと思います。それはとても素晴らしいことです。
- peerの活動は今の学生にとってとても大切なことなので、遠見さんに続く人として星野さんらしさを大切にして頑張ってください。
- 再認識してもらいました。自分も人に伝えていきたいと思えます。
- 自分は高校時代にこういう話は聞けなかったから、この話を聞ける高校生がうらやましい。

連絡先：高崎健康福祉大学看護学部3年生 星野貴泰

〒370-0033高崎市中大類町501 高崎健康福祉大学看護学部

TEL:090-2469-4376 E-mail: muchas_gracias_amigo@yahoo.co.jp

http://blogs.yahoo.co.jp/muchas_gracias_amigo



医師・牧師・教員がセッション

◇AIDS文化フォーラムin横浜2010◇



(左から) 中村、中谷、古川、岩室の各氏

2日目は「宗教とエイズ」をテーマにセッションが行われた。5回目となる今年は、「性・エイズ教育と宗教」を副題に、地域医療振興協会へ

「性・エイズ教育・宗教」

AIDS文化フォーラムin横浜2010(同フォーラム組織委員会主催)が8月6日(8日)、かながわ県民センター(横浜市)で開催された。17回目となる今年は、「他人ごと??」をテーマに46のプログラムが行われ、来場者数は3千人を超えた。同フォーラムは、横浜YMCAが事務局を務め、神奈川県が共催し、県内の民間団体などが後援するもの。1994年に「エイズ国際会議」がアジアで初となる横浜で開催されたのを機に、市民版エイズフォーラムとして、エイズ問題に取り組むボランティア・NGO・専門家が立ち上げた。

2日目は「宗教とエイズ」をテーマにセッションが行われた。5回目となる今年は、「性・エイズ教育と宗教」を副題に、地域医療振興協会へ

村吉基(日基督教団新宿コルスプロモーション研究

センター長で医師の岩室紳也氏司会のもと、古川潤哉(浄土真宗本願寺派僧侶)、中谷豊実(南山中学・高等学校教諭)、中

少なくなってしまう」と述べ、「死別」を扱う歌やドラマの内容が美しいものばかりで、現実の死を知らない子どもが増えていると危惧を表明した。

愛知県の私学性教育研究会主任であり、南山中高男子部で保健体育を教える中谷氏は、「コンドームや同性愛について、パチカンはまだ認めていないが、多くのミッショ

ンスクールでは文科省の教科書に沿って教えることとはできると思う」と述べ、「授業では事実を伝えてい

師)の各氏がエイズや死生観について語り合った。

佐賀でホスピス支援を行っている、かつてはクラブやライブハウスで性感染症予防を呼びかけるサークル活動も行っていたという古川氏は、予防の啓発を行う人は多いが、感染した後のケアが大変だとい

うことが伝わらない」と訴えた。また、いのかの大切さを伝えることについて、「あなたも死にますよ」と言える大人が

「日本はHIV/エイズの人を受け入れる教会を作りたい」との思いから

自ら同性愛者であることとを明かした中村氏は、「直接会えない場合は、教会を紹介するなどの対応策をとってきた。よりの多くの人の話を聞いた」と、平日はパーを営

明。2004年から新編2丁目で牧会する中で、「所属教会で自分のセクシュアリティをカミングアウトしたら教会に受け入れられなくなった」という内容の相談が100件ほど寄せられたという。中には北海道やアメリカからも相談のメールが届くこともあり、本人が届くこともあれば、本人に直接会えない場合は、教会を紹介するなどの対応策をとってきた。よりの多くの人の話を聞いた」と、平日はパーを営

「宗教の役割は、1人でも多くの信徒を増やすことでもなく、大きな教会を建てることでもない。共生するのが宗教のあり方だと思う。どれだけ1人の人に寄り添って

いけるか。目の前に困っている人、苦しんでいる人がいて、その人に共感して、教会の方もお祈りする。その『お祈りする』ことが、これからの宗教に求められているのではないかと語った。

「宗教の役割は、1人でも多くの信徒を増やすことでもなく、大きな教会を建てることでもない。共生するのが宗教のあり方だと思う。どれだけ1人の人に寄り添って

いけるか。目の前に困っている人、苦しんでいる人がいて、その人に共感して、教会の方もお祈りする。その『お祈りする』ことが、これからの宗教に求められているのではないかと語った。

いかなる状況にあっても、あなたはあなたとして尊いというメッセージを伝えるものであると確信している。

来場者感想:
● 宗教とエイズ、難しかったです。宗教はもっと、かたくるしさがあって、信じなければならぬ気がしていました。しかし自由なのだと思います。(東京都 10代 学生)
● 地元で性教育に熱心な先生がいることでとてもおどろいていました。「今の社会にあわせていく」「正しい知識をつたえるということに関して宗教のちがいはあれど、とても重要だと思いました。(愛知県 30代 保健医療関係)
● 生きることに對して非常にポジティブな力をもらいました。さまざまな偏見とか心の壁が自分の中にあるのに気づきました。あるがままでいいのだということを感じ自分も肩の力がぬけて楽になりました。さまざまな教科書的なデータなどよりも、1人1人の心、声が、本当に心にひびいた。(千葉県 30代 保健医療関係)
● ものすごく面白かったです。私も両親が浄土真宗、自分は13歳の時に自らプロテスタントの洗礼をうけたのですが、母が7年前に亡くなった時はお寺さん(お西さん)と話し合う機会がありました。今日、自らの仕事(医師)に、自分の背骨である宗教(という違和感があるのですが)が、知らぬ間に生かされているのだと気づき、もっとそれを自覚して生かしていきたいと思いました。(神奈川県 30代 保健医療)
● 大変ユニークな人選で深い内容をたのしく聞きました。AIDSという病は、命、生と死、社会的問題... とにかく命の(生きて死んでいくこと)全てについて考えねばならない(かんがえさせるための?)病だと思います。その問題について、宗教家の方々がいろいろな切り口で語って下さる。とても有難いです。
● パネリストがユニークすぎて私が過去に会ったことのない型破りの方々ばかりで宗教も様々な切り口でかいま見ることができた。かなり広い範囲の話で、この2Hのみではこなしきれない感想もある。(神奈川県 60代以上)

◆大切なものは何ですか？

主催：アジアの女性と子どもネットワーク

アジアの中でも社会的に弱い立場にある女性と子どもの権利を守るための活動を教育支援を中心に続けている。



内容：今年は展示だけでなく村瀬幸浩先生をお招きし講演会も開きました。講演内容は「性感染症の今～AIDS、まだ他人事だと思いませんか？～」と題し、教え子である大学生を通して感じる現代の若者の受けてきた性教育についてや最近のデータや新聞記事などから見えてくる問題点に

についてお話いただきました。参加された方からは『人を選ぶのではなく行為を選ぶ』のが大切だと知った」「AIDSについて、まだ他人事だと思っていた自分に気付いた」「自らの体験談を綴った新聞記事などの資料が良かった」10代の若者から「学校でもっと教えるべきだと思った」などの感想をいただきました。これからも私たちは社会的に弱い立場にある女性や子どもたちの権利を守るための活動を続けてまいります。これからもご協力くださいますようお願い申し上げます。

連絡先：アジアの女性と子どもネットワーク

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC内

Tel: 045-650-5430 Fax: 045-650-5430 E-mail: awc@h6.dion.ne.jp

<http://www.awcnetwork.org>

人を選ぶのではなく

行為を選ぶ

◆HIV/エイズへの取り組み -Living Together-

名古屋市立大学教授 市川誠一

主催：NPO法人AIDSネットワーク横浜

電話相談、人材養成のためのボランティア学校、出前講座、がらくた座公演による啓発活動等を行っている。

内容：MSM(Men who have sex with men)の話を中心に、日本の現在のHIV/AIDSの動向、MSMの有病・陽性率、その背景と社会の対応、啓発の意義・ゲイNGO活動の効果、エイズ予防のための戦略研究について、最新のデータに基づいた話が展開された。MSM人口は統計上100人に4人といわれている。2008年度では、MSMは10万人に103.7人、非MSMでは10万人に23.9人が発病を含めた感染率である。日本でHIV/AIDSが危機的に増加している背景と、その中で大きな割合を占めているMSM間の感染予防に対する取り組みが必要なことが理解できたと思われる。神奈川県以外の行政関係の方も含めて約40名の参加者をえたが、その感想では、「わかりやすかった。現状がよくわかった。」「啓発が大切だと思う。」「NGO、行政、当事者の連携の輪を広げる必要がある。」などが寄せられました。



連絡先：NPO法人AIDSネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-9 尾上町ビル9階 横浜AIDS市民活動センター内

Tel: 045-201-8808 Fax: 045-201-8809

E-mail: any@netpro.ne.jp

<http://www.netpro.ne.jp/~any/>

◆他人事のエイズと他人事の宗教 ～どうして僕たちは他人事にされるのか～

主催：洪久夫&古川潤哉・浄土真宗本願寺派僧侶&岩室紳也

内容：HIV/AIDSの当事者も、宗教者も、HIVを診療している医者も、日本では他人事。本当はHIV/AIDSを自分の問題、家族の問題としてとらえ、宗教とは日常生活の中で関わり続け、HIVを当たり前のように診てくれている医者がどこにいるのかを普段から気にかけてもらいたいものです。でも、ほとんどの人はHIVを自分で抱えるまで、身内でお葬式を出さなければならなくなるまでエイズも宗教も他人事。なぜそうなったのかを3人が語りました。



来場者感想：

- 知識が無かったので、多くのことを教えてもらえて有意義でした。(東京都 30代)
- 参加型のプログラムが新鮮で良かったです。(大阪府 20代)
- なかなか面白い時間でした。自分の振り返りにもなりました。人数もちょうどよかったかも知れません。ありがとうございました。(40代)
- 宗教について知る事ができたので良かったです。他の方の考えや思いが聞ける 良い機会になりました。(20代)
- 「他人事ではあるが無関係ではない」 正に人生の生き方の指針的言葉であると思う。(神奈川県 60代以上)
- 宗教が福祉になっている(た?)ことを改めて感じた。「無関係」なことは何もないと言われドキッとしました。(東京都 20代)
- どういう関わりがあるのか?と思ってきました。面白いタイトルですね。(千葉県 30代 NGO/NPO)

連絡先：岩室紳也 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館15階
公益社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター
Tel: 03-5212-9152 Fax: 03-5211-0515 紳也's HP: <http://iwamuro.jp/>

◆コンドームのCMを作ろう！

主催：HAATAS

内容：動画投稿サイトにある世界のコンドームやエイズの予防啓発のCMを見てもらい、各国の状況を解説する。次に、HAATASで作ったCM案を4コマ漫画形式でプレゼン。来場者にもチーム分けして、それぞれ同様のCM案を作ってもらおう。

来場者感想：

- 諸外国のCMをみて、国別事情によって訴える内容も異なることがわかり勉強になった。自分たちでCMをつくることで、何を訴えたいかを改めて考えるきっかけとなった(20代 東京都)
- 色々なコンドームやAIDSのCMを見てしょうげきを受けたものもあったけど、こんなものもあるんだあと勉強になりました。CM?作るのはとても楽しくできたので良かったです。コンドームはやはり使わなきゃいけないものなんだとあらためて実感しました(10代 神奈川県 学生)

連絡先：SHARE事務所内HAATAS 山根麻衣子
〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6丸幸ビル5F Tel : 03-5807-7581

他人事ではあるが
無関係ではない



◆エイズミーティング「薬害のことも忘れないでね」

主催：薬害エイズを考える山の手の会



内容：薬害エイズを風化させないために薬害エイズを考える山の手の会は様々な活動をしてきましたが、今回は薬害のことを若い世代にも伝えていこうと、若者が多く利用するインターネットに注目して、ユーストリームというインターネット中継を試みました。慣れなくて録画をし忘れたり失敗もありましたが、当日は4名のインターネットからの視聴者がありました。ツイッターによる意見もよせられ、今後活動に活かしていくきっかけになりました。

会場参加者も学生が参加してくれ薬害被害者も薬害エイズだけでなくサリドマイド、肝炎と様々な薬害被害者の生の声が聞けて大いに議論が深まりました。

また、山の手の会のメンバーも自分たちの殻に閉じ込められないで、エイズフォーラムの他のプログラムに積極的に参加して他団体との交流も深めました。

会場参加者：14名（インターネット中継視聴者：4名）

来場者感想：

- 参加者の生の声は迫力があり心に響いた。
- 副作用と薬害など色々な事が勉強できた。
- 今後も薬害について勉強していく上でのキーワードをもらえた。
- 薬害被害者から経験を通して得られた具体的な「体験知」を聞いて大変勉強になった。
- 普段あまり関わることのない人と関わって良かった。
- 継続的に行われていることに敬意と意義を感じる。

連絡先：薬害エイズを考える山の手の会 江川 守利

〒123-0865 東京都足立区新田3-17-2-105 Tel&Fax:03-6802-5680

E-mail: egawa.moritoshi@topaz.plala.or.jp http://blog.goo.ne.jp/egawa_moritoshi

“人として”

考えることが

できました

◆SEXYなカフェ

主催：チーム・サクラヤ

内容：HIV感染者桜屋伝衛門が、毎回様々なゲストを迎えて送るプログラム。今年も学校教員、看護学生らを招き、SEXYな話題で盛り上がった。恋愛、性に関する様々な話題を扱い、あっという間に時間は過ぎてしまう。当日、会場には男子高校生が多く、彼らと大人の交流が出来かけた…所で時間終了となってしまったのが惜しかった。話題の選定に関しては成功していたのかも知れない。

来場者感想：

- 様々な年代の方と、お話をすることができて、良かったです。男性の意見・女性の意見では違いがあり、新鮮でした。あっという間に時間がたってしまいました。もっとみんなと話したいと思いました(東京 10代 学生)
- 友人以外と、SEXYなはなしをするのは久しぶりで、はじめはドキドキしていました。ありがとうございました。
- 10代・20代のころを思いだし、年をとったなと感じました。私は、HIVの方と話をする機会が多いわけではありませんが、HIVポジ／ネガがあつまってはなし、考えるということは大事だなと思いました。“人として”考えることができました(30代 愛知 保健医療機関勤務)



連絡先：桜屋伝衛門 E-mail: toy_toy_0906@yahoo.co.jp

◆セクシュアルマイノリティが過ごしやすい社会作り ～学校・行政・ゲイユースの取り組み～

主催：かながわレインボーセンターSHIP（横浜Cruiseネットワーク）

男性同性間のHIV予防啓発と、一般社会のセクシュアルマイノリティ理解促進を目的に活動しています。（かながわボランティア活動推進基金21協働事業）

内容：エイズ対策を進める上でセクシュアルマイノリティへの理解は重要な問題ではあるが、一般社会の偏見や差別から教育の現場の中においてセクシュアルマイノリティの話題をタブー視されることがある。そんな中、保健委員の生徒や、ゲイの高校生により、学校の中でセクシュアルマイノリティへの理解に向けた活動が起きている。今回はゲイの現役高校生から学校の中での生き難さを話してもらうとともに、港北高校保健委員の取り組みの紹介を行なった。また、精神科医の平田先生をお招きして、セクシュアルマイノリティのメンタルヘルスの実情や海外の事例などの講演を行なった。

来場者感想：

- マイノリティの人も皆、自分らしく今の場所でのびのびと自然に暮らせる社会に早くしたいですね。
- 港北高校の取り組みがとても良かったです。
- 高校生(当事者・非当事者)がこれだけ語っているのはすごい！と思いました。
- 高校生の発表や当事者の方の体験談を聞いて、若者のパワーと素直さをものすごく感じました。
- 自分たちの問題であることを意識して、同じ目線で考えるのはとても大切です。
- 大人の講師が語るよりも、身近に感じる事ができる手法だと思います。



高校生が

これだけ語っているのは

すごい

連絡先：かながわレインボーセンターSHIP内 星野慎二 Tel/Fax 045-306-6769
横浜市神奈川区台町14-2 ピレア台町2階 E-mail: ship@y-cru.com

◆安心して働ける職場を目指して

主催：NGO-労働組合国際協働フォーラム HIV/エイズ等感染症グループ

当フォーラムはNGOと労働組合が連携して、世界の貧困や教育、保健などの課題に取り組んでいる。

内容：当グループは4年連続の参加となり、2010年6月のILO総会で採択された、職場におけるHIV/AIDSに焦点を当てた初めての国際人権文書である、ILO第200号勧告を紹介した。さらに、関連したテーマを基に模擬労使交渉のワークショップを行い、労働組合員やNGOスタッフ・インターン等、17名の参加を得た。

最初に、このILO総会に参加した連合雇用法制局の市川局長から、陽性者への差別の禁止や予防の推進等、ILO第200号勧告の概略の説明を受けた。続いて、ワークショップでは「居酒屋チェーン店Aでは、調理部門のパートタイマーのひとりが体調不良で退職したあと、HIVに感染していることが判明したのを契機として、会社から労働組合に対して、“パートタイマーを含めた全従業員一律のHIV検査の実施”が提案された」という条件の下、組合側・会社側に分かれて議論を行った後、模擬労使交渉を行った。模擬労使交渉では活発な対話がなされ、参加者からも「労使双方の立場を考えることができた」と好評だった。



連絡先：日本化学エネルギー鉱山労働組合協議会(ICEM・JAF) 徳永 典弘
〒108-0073 東京都港区三田2-7-13 TDS三田2F
Tel: 03-3454-8521 E-mail: tokunaga-jaf@wit.ocn.ne.jp

◆性教育はなぜ広がらないの？

過去の研究動向の分析をもとにみんなで考える

主催：エイズを伝えるネットワーク (TENCAI)

HIV/AIDSと性の健康教育を通じて、多様な価値観をつなぐコミュニケーションを促すワークショップを企画・開催しています。

内容：性教育の必要性が言われながら、実際にはあまり盛んには行われていない現状があることを、過去の性教育の研究動向と実際の取り組み例から示して、それに対して自分がどのようにアプローチするかを話し合うワークショップを行いました。



来場者感想：

- 性教育とキーワードでもはじめて知った情報が多々あり、もっと知って自分の考えを持ちたいと思った。
- 文献だけでなく、性に関する数字のデータが多くあると、性に関することを具体的に考えることができそうです。
- 後半、性教育が広がらない理由をもっと深めた議論がしたかった。
- 最初、入場後、ワークショップかとおっくうになったが、様々の人々(日頃話せない)の意見が聞けて新鮮だった。人間は、時代は進歩しても(そう思いたい)が偏見に満ちて生きているものだとあらためて納得した。
- 様々な意見が聞けて、性教育に対して個人で意識していくことが大切だと思った。
- 何も隠さずに教えることといった考えは変わりませんが、それに対してのアプローチをうまく考えないといけない。

性教育に対して

個人で意識していく

ことが大切

連絡先：エイズを伝えるネットワーク(TENCAI) E-mail: mail@tencai.org
〒101-0021千代田区外神田2-1-11 松住ビル2F B室 わかばてい2内

◆小中高の「生きるための心の教育(性教育)」による AIDS予防

主催：PNY[ぴにい Peer Network Yamagata]・性問題対策を考える保健師の会
PNYはPHA、NGO、学生・PTA・教育者、医療関係者、行政等、様々なメンバーが対等な立場で共にAIDS/STIの予防対策を考える会です。PNYで得た経験を保健師として還元していきたいと考えている会が性問題対策を考える保健師の会です。

内容：AIDSを含む性問題対策について保健行政はどう進めるか、様々な役割を持つ保健師の横のつながりの強化等も含め検討する。

来場者感想：

- わかりやすい内容、今必要な内容のお話をプレゼンしていただき、夏休みの充実した一日になりました。
- 素晴らしい合意形成を図っていった活動を知れてうれしいです。
- 自分が家庭で、職場で何ができるかを初めて考えることができました。
- 「生きるための心の教育」は学校現場だけでなく、地域の保護者を巻き込んで行うことが重要ですね。
- 高校3年生ですが知らないことがほとんどでびっくりしました。性教育について軽く考えていてこれからちゃんと勉強しなければいけないと思いました。
- 単発で終わりがちな性教育の系統立てた教育について大変参考になりました。等々の感想をいただきました。皆様の少しでもお力になれるよう継続した活動をしていきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひいたします。



連絡先：代表 渡會睦子 〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17
東京医療保健大学内 E-mail: mutsuko@mub.biglobe.ne.jp

◆性問題対策における保健師の役割を検討しよう！

主催：PNY[ぴにい Peer Network Yamagata]・性問題対策を考える保健師の会
PNYはPHA、NGO、学生・PTA・教育者、医療関係者・行政等、様々なメンバーが対等な立場で共にAIDS/STIの予防対策を考える会です。PNYで得た経験を保健師として還元していきたいと考えている会が性問題対策を考える保健師の会です。

内容：AIDS対策について保健行政はどう進めるべきか、様々な役割を持つ保健師の横のつながりの強化等も含め一緒に検討しました。

来場者感想：

- 保健師の専門性、らしさ、強みを生かして示す力をもっとつけたい!!と思いました。
- 基本にかえって地域を診断して対策を考えることが大事だと改めて考えさせられました。一つずつ行動することが大事ですね。
- PNYの活動を初めて知り今後も参加したいと思いました。
- お話が大変興味深く参考になりました！

等々の感想をいただきました。保健師の活動をPRしていくことは住民の方々の健康につながっていくと思っています。皆様の少しでもお力になれるよう継続した活動をしていきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

連絡先：代表 渡會睦子 〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17
東京医療保健大学内 E-mail:mutsuko@mub.biglobe.ne.jp



◆HIV/AIDS患者の高齢化と医療現場から見た課題

横浜市立大学附属病院 福祉・継続看護相談室 友田安政 ソーシャルワーカー
横浜市立市民病院 患者総合相談室 篠原直樹 ソーシャルワーカー

主催：神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課

内容：神奈川県エイズ治療拠点病院で活躍する2名の医療ソーシャルワーカーによるHIV/AIDS患者の「高齢化の影響とその問題点や課題に対する活動の実際」についての講演。神奈川県エイズ治療拠点病院に受診するHIV/AIDS患者の最近の傾向の一つである「HIV/AIDS患者の高齢化」は、経済的な問題や長期に渡る療養を継続するための支援、要介護状態となる患者数の増加といったことに影響します。しかし、福祉サービスの利用や施設入所、転院は、現在の医療制度の問題やHIV/AIDSに対する恐れ・誤解・心理的な抵抗・差別・偏見・無関心といったケアの担い手である従事者の想いがあり、断られることがあります。そこで、医療ソーシャルワーカーら拠点病院のスタッフはHIV/AIDS患者のサービスを利用する権利を保証するために、一般病院や介護施設の方々に正しい知識を持ってもらうための研修などを行っています。HIV/AIDS患者の高齢化は、ますます進行することが予測されるため、患者が望む場所で療養できるような社会に変えていく必要があります。

来場者感想：

- 心配なことや疑問があったときに相談できるバックアップ体制があると利用できる施設や在宅サービスも増えてくるのではないかと思います。医療と福祉の連携は大切であると改めて感じました。
- 地域での受入体制の重要性を感じました。
- リハビリの可能性や最期の場所を選べない現状に「人権」ということを考えました。
- HIV/AIDSの患者さんが生活しやすい社会にするためにはどうしたらよいのだろうかと考えさせられました。

連絡先：神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課感染症対策グループ
〒231-8588 横浜市中区日本大通1 Tel:045-210-4793

医療と福祉の連携は
大切であると
改めて感じました



◆AIDSへの取り組み@タイ

主催：横浜YMCA

内容:横浜YMCAでは、タイ・バンコクYMCAとパートナーシップを持って、人身売買から児童を保護するプロジェクトやエイズ孤児ケアセンターの運営を行っています。今回は、北タイにあるYMCAパヤオセンターから来日している職員ラーチャネー・タンティカさんが、タイでのHIV/エイズ事情と、YMCAが実施している取り組みについて、実際に啓発ワークショップを体験してもらいながら紹介しました。また、横浜YMCAから1年間パヤオセンターに長期滞在ボランティアとして活動してきた中元博美さんから、センターの様子や現地での経験について語ってもらいました。



来場者感想:

- 「人身売買」と一言と言っても、問題は大きく、ディスカッションすることもできません。このような上映会が、今後人身売買に対する意識を高めたり、抑止につながるものになると思います。
- in横浜だけではなく、同じ内容のものを各地でやってほしいです。(神奈川県 20代 学生)
- タイの子どもたちと家族のような深い関係を築いて活動なさっているところに感動しました(神奈川県 20代学生)
- 楽しい映像やワークショップありがとうございます(東京都 10代 学生)



連絡先:横浜YMCA 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7

Tel: 045-662-3721 Fax: 045-651-0169

E-mail: kokusai@yokohama-ymca.or.jp

◆女性とHIV感染症

主催：「HIV感染妊婦とその出生児の調査・解析および診療・支援体制の整備に関する総合的研究」和田班(財団法人エイズ予防財団・研究成果発表会)

内容:日本では、過去にHIVに感染している妊婦さんには中絶を勧める時期もありましたが、現在では適切な予防対策によって母子感染を1%以下に予防できることが分かってきました。私たちの研究班では、母子感染予防を目指して10年以上にわたってデータを蓄積してきました。今回、これらの情報をみなさんにご報告させていただきました。妊娠したらまず妊婦健診で、他の母子感染の検査と同じようにHIV検査を受けることが重要である、このことを理解し広く周知いただければと思っております。

来場者感想:

- 母子感染の実際の話はあまり聞いたことがなかったので、勉強になりました(40代)
- 現状について知ることができた。地域でのHIVの取組に行かせることがたくさんあった(50代 保健医療関係)
- 統計的事実に基づいた話をきくことができよかった(20代 学生)
- 長年のデータの蓄積の中でみえてきているものや、自分が今直面していないけど、今後直面するかなあということばかりでした(40代 保健医療関係)

連絡先: HIV研究事務局・鈴木

〒983-8520仙台市宮城野区宮城野2-8-8

仙台医療センター内 TEL022-293-1111



長年の

データの蓄積の中で
みえてきているもの

◆ウガンダのエイズ孤児支援 「ワトト・チャイルドケア・ミニストリー」 ～ウガンダのエイズ孤児～

主催：ワトト・ジャパン



内容:1994年にカナダ人宣教師、ゲアリー・マーリーンスキナー牧師夫妻によってウガンダのキャンパラ市街地で始まった「ワトト・チャイルドケア・ミニストリー」はエイズや内戦で親を失った子ども達を助けています。そのワトト村の孤児で結成された「ワトト・チルドレンズ・クワイア」は2008年5月に初来日し、以来毎年、日本の各地において「ワトト希望のコンサート」を開催し、人々に希望の灯をともし続けています。

また、エイズ孤児の支援だけではなく、内戦のために荒れ果てた北ウガンダのグル市における「トラウマカウンセリング」やHIVの未亡人の母親への技術支援を行う「リビングホープ」のプロジェクト、ワトト村に入る前の乳幼児を助ける働きを担う「ベイビーワトト」など、多岐にわたる支援を行っています。

このようなワトトの活動やコンサートの映像を、PPTとDVDで紹介させて頂きました。

連絡先:「ワトトジャパン」〒106-0032 東京都港区六本木7-20-8-1201

TEL/Fax: 03-5775-3747 E-mail: japan@watoto.com <http://www.watoto.jp>

生きる力強さは

どこから

生まれてくるの？

◆南アフリカ共和国、タウンシップでエイズとともに生きる

主催：ニバルレキレ事務局

ニバルレキレ (ngibalulekile) はズールー語で「あなたはあなたであるだけで素晴らしい」の意味。南アフリカ共和国でエイズとともに生きる人々を支援すると同時に、タウンシップと日本を結び人々の暮らす姿を伝えるワークショップや展示会を各地で行っている。

内容:2004年にはじまった公費によるARV治療。いまだ平均寿命は40代で推移し失業率の高さも人々を悩ませている南アフリカ共和国。サッカーワールドカップによって見聞きした、豊かさや社会問題、いろいろな疑問を感じた方が来場してくださいました。HIV陽性者の暮らしは？生きる力強さはどこから生まれてくるの？性の教育はどうなっているの？社会問題は、とくに治安は？医療現場は？草の根の活動は？日本の私たちにできることは？など..。

いろいろなことを皆で語り合うことができました。私たちの方からは、展示ブースでの子供の作品や写真パネルとあわせて、ワークショップでも写真や作品を使って、タウンシップに暮らす一人の少年とその家族がエイズや死、貧困、自らの感染など様々なことを乗り越えながら、生き生きと暮らす姿と、彼らの周囲で生まれた住民によるプロジェクトの様子を紹介しました。

作品や写真パネルや貸し出しをおこなっています。ぜひ展示会を開きませんか？

連絡先: 〒026-0025 東京都多摩市永山3-1-14-205 小山方 ニバルレキレ事務局

Tel: 03-3834-6902 (アフリカ日本協議会・斉藤宛)

Tel: 090-1707-2296 (小山) <http://d.hatena.ne.jp/nqibalulekile/>



他人ごと??

◆「Report from KENYA」

主催：ワイズユースクラブ横浜 Y-3

横浜YMCAをサポートするユースの団体です。横浜YMCAのプログラムやリーダー育成、フリマを通してHIV/AIDSに対する関心を広める活動などを行っています。

内容:ケニアYMCAが支援しているMsamaria Mwema Home (for people living with HIV/AIDS)で活動しているユースボランティアClifford Omondiさんに活動の内容や、想いを語ってもらいました。ケニアでは、多くの若者や女性がHIVの感染に苦しんでおり、根強い偏見のため感染した人々を孤立させてしまっています。Cliffさん達はユースボランティアを中心に、人々の意識を変えるプログラムを行ったり、孤児となった子どもたちとゲームをしたり食事を作るなどして活動しています。深く愛情を持ち、活動をしている様子に心が熱くなりました。現場で働くユースのリアルな声を聞く貴重な機会となりました。

来場者感想:

- AIDSについて考える機会が中々なかったので今日参加できてよかったと思います。HIV/AIDSの基礎知識のみならず、ケニアのリアルな話を聞けてとても興味深かったです。情熱と愛を胸に心を入れかえ、生活してみようと思いました。
- ケニアYMCAの活動がよく分かり、大変参考になりました。生の声が聞けた感じです。
- ケニアの子供達を見てもっとAIDSやHIVを皆が知れる場を増やしていきたいと思った。

連絡先: ワイズユースクラブ横浜Y-3 CS委員会 渡辺めぐみ

E-mail: megu0213@rc5.so-net.ne.jp

◆AIDS・人権教育素地づくり③

主催：PHILIP+/ロージナの会

PHILIPとは? JANP+の創設メンバー尾崎友と有志による活動グループ。

Project of Health Information & Life Innovation with PLWHA(陽性者と共に健康と正気に分ち合いと生活の質的変容を目指す時限活動)の総称。プラス、さがみ、湘南3つの活動を05年~08年に実施し第一次活動を終えました。11年からアディクションと性感染症プロジェクトを始動させる予定です。

内容:07年に湘南サークルから提起し、新聞等で反響を得た「100万回生きたねこ」を再度取り上げた。出会った飼い主に飼い殺し同然の生き方を仕向けられてきた主人公。初めて手にした自由な生活も、出会う相手にパワーゲームを仕掛けては自己憐憫にも似た正当化や排他的な態度を繰り返す。あるとき転機が訪れ、白いねこと出会う中から「一緒にいたい」という本当の自分の気持ちに気付く。生きる意味のあるステップを踏み出した主人公は、家族を「自分より少しだけ好き」になる一方、パートナーとの死別の運命に初めて精神の回復を見分け、唯一の実人生を完結していく。そうして見えてくる作品世界は、HIV、薬物アディクション、多様な性的アイデンティティといった現代の最重要課題に向き合う私たち自身が、対話精神と経験と希望で分かち合い、明日の必要を獲得する素地づくりに最適な作品となる。つまり、存在証明をかけた文学としての側面から照射した時に、この作品世界は強い感動と共感とともに私達に必要な視点的立場を見出させた。人生のターニングポイント獲得のプロセスを典型的かつイメージリーに描いているからだ。

連絡先: 山崎方 PHILIP

〒110-0015台東区東上野6-20-2-302

E-mail: aihara3104@yahoo.co.jp



深く愛情を持ち、
活動をしている様子





私は「やめて」が

言えないタイプでした



◆恋とデートDV —全ては同じ始まりから—

主催：ウィメンズクリニック・かみむら 上村茂仁 (かみむら しげひと)

岡山で婦人科を開院しています。25%の患者さんは高校生以下です。また性教育授業を小学生以上に行ないながら、毎日100件以上、中・高校生からの携帯メール相談を受けています。

内容：クリニックに来る患者さんで性感染症や望まれない妊娠の問題がある10代女子の70%近くはDVの被害者です。現在は中学校3年生以上のカップルの10%がデートDVの関係にあります。医学的にHIV や性感染症の予防を考えたとき、人と人の付き合い方から考えなければ予防は出来ません。しかしながら恋愛は自由で、正しい付き合い方というものはなく、間違った付き合いをしないことが大切です。その事を幼稚園、小学生のうちからきちんと知ってもらうこと、また困ったときに怒らずその場その場できちんと相談にのってあげることができる場所や人がいることがとても重要です。恋は盲目といいますが。逆に盲目だから恋でもあります。すべての恋はデートDV に陥る可能性があります。それにどのように気づき対応したらいいのかメール相談の事例を見ながらみんなで考えました。

来場者感想：

- DVの話は高校生以上という印象でしたが、小6からという考えだったので考え方が変わりました(30代女性)
- 私ももはや携帯世代。高校生の頃から携帯電話を使ってきました。いろいろな危険性を考えながら子供たちに伝えてゆきたいと思います。(20代女性)
- DVは意識の表れだと思いますが、それをしっかりとした表現をすればいいと思いますが、それが出来ない人がDV をするのだと思います。(10代男性)
- 私も何度かそういう経験をしました。私は「やめて」が言えないタイプでした。20代になって今の彼に出会えて良かったです。今日聞いて今までの自分と重ねてしまいました。(20代女性)

連絡先：ウィメンズクリニック・かみむら 上村茂仁
〒700-0901 岡山市北区本町4-18 コア本町3F
Tel: 086-803-5338. Fax: 086-803-5339
E-mail: kamimura@kitty.jp <http://www.wck-ok.jp>



◆エイズ教育の歴史に学ぶ ～フロア参加型エイズ教育反省&展望会～

主催：安藤晴敏 神奈川県立高校教員

岩室紳也 公益社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター医師

内容：1990年代前半から試行錯誤でHIV/AIDS教育に安藤は学校の教師という立場で授業を、岩室は保健医療の立場で学校で講演してきました。教科書の変遷とその内容を紹介し、学校教育を振り返り、反省点を提示し、社会におけるHIV/AIDS啓発を含め、今後の展望をフロアと共に考えました。

来場者感想：

- 教科書を活用して教育ができることを再認識しました。また幸い私には高校生の息子と中学生の娘がいるので、そのあたりも活用したいと思いました。保健所で働いていますが、事例からも子どもや地域に伝えるメッセージをつくっていききたいと思いました。どこの都道府県に住んでいても、どこの学校に通っていても最高の教育が受けられるようにしていくのが私の夢です。(京都府 40代 保健医療)
- 私が同性愛やゲイなどの言葉を知ったのは、大学生になってからでした。そもそも男女は身体の仕組みは違えど、中身は同じだ！！と信じていましたので…。今思い返しても、高校の時の性教育の授業は、先生も私たち生徒も恥ずかしくて、授業になっていなかったな…というのが印象です。だから、大人になってからの大事なこと、今から自分の身にかかわってくることとして、子ども達に学んで、考えて欲しいなと思っています。(神奈川県 20代)
- 最後に発言をされた2名(22歳、23歳)の発言が大変印象に残りました。もし感染したら、どうすればいいのかという情報がないという当事者の言葉はこれから少し伝えていきたいと思います。(広島県 40代 保健医療)
- 学校に外部講師として性教育に行くことがあります。学校の先生が、こんなに詳しく授業をされていらっしゃるとは知りませんでした。同じ話をしても意味が無いので、学校でどういふことをどこまで教えているのかをきちんと把握して、学校では教えられないような事例などを沢山お話ししたいと思いました。(千葉県 20代 保健医療)
- 教育について、立ち止まって考えることができました。頭で考えること(学校の教育、生徒の知識、関心)、知ることは前提として欠かせませんが、日常、生の声を聞く機会から得たもの、自分で体験したことからの感情は、心と心が響き合うためには必要だと思います。保健師は、電話相談、検査を受けた人と話す機会に恵まれています。生の声を、これからの子どもたちに伝え、行動することのメリットを伝えていきたいと思います。生き方を考えることにつながると思います。(神奈川県 40代 保健医療)
- 久しぶりに、教師、体育の教師らしい、押しの強い、ゆるぎない自信に満ちた語りを聞きました。岩室先生の「教科書に載っている」という“逆手に取った”方法論、参考になりました。(50代 保健医療)
- 現在使用されている教科書を実際に見ることができてよかったです。「教科書」はかなりの説得力があると思いました。(主に学校側に対し)学校ではPTAとのからみもあり「直接的な言葉を避けるように(授業を)行うように」との依頼があるのだと思いますが…早く性教育を見直すようにしてほしいものです。「くさいものにフタ」でいいのでしょうか…。(埼玉県 20代 保健医療)



心と心が

響き合うためには

連絡先：岩室紳也 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3

都道府県会館15階

公益社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

Tel: 03-5212-9152 Fax: 03-5211-0515

紳也's HP: <http://iwamuro.jp/>



◆朗読ワークショップ

主催：県立横浜平沼高校演劇部＋岡島龍彦 (H.I.Voice Act)

HIV/AIDSに影響を受けた様々な人たちの言葉を朗読することから、HIV/AIDSを自分自身の身近な事柄としていく活動

内容:高校の演劇部生徒をゲストに迎え、一般参加者とともに、普段、H.I.Voice Actが学校で行っている朗読ワークショップを実施。

○アイスブレイク・自己紹介 (椅子席のサークル内で、誕生日順に席替え→生まれた地域順に北から南へ席替えし順番に)・仲間探しゲーム

○朗読・輪読(H.I.Voice誌の中から抜粋した文章「台本:僕らのとりのHIV」を輪になって順番に朗読)・読んで聴いての感想のシェア

- ・一人にならないで(アルファ) ・あなたの顔が見たい声が聞きたい(たんべ) ・空(そうた)
- ・あなたの恋人がHIVに感染していたら(チョコチップメロンパン) ・思うこと(ヨーダ)
- ・どうもありがとう(チョコチップメロンパン) ・今年一番うれしかったこと(ヨーダ)
- ・byカニーヒア(カニーヒア) ・カニーヒア(いもうと) ・永遠の昨日(CALLA) ・手紙(M君)
- ・AIDSを100倍楽しく生きる方法(アルファ) ・親しき人たちへ(CALLA)
- ・手紙(M君のお父さん) ・恋人の感染を知って(S・R) ・カラッポロボット(だが・きりん)
- ・どうもこんにちは(虹) ・私のカミングアウト(ひまわり) ・自然学(CALLA)

○発表の準備・午後の発表に向けて出演者の確認・配役決めと進行確認(午後1時から「HIVと私たち」304室で朗読劇場)

来場者感想:

- これまで自分の子どもがHIVに感染してしまった人の気持ちを考えたことがなかった。(大阪府 20代 保健医療関係)
- 声に出して、感染者や身近な人の思いを読むことで、より身近に感じられるものなんだと気づきました。朗読をきく人に聴かせることそのものより、朗読する人が、朗読することそのものに、とても意味があると思いました。(東京都 50代 教育関係)
- 今までHIVというものをよく考える機会がなく、自分には関係ないだろうと思っていたけど、今回自分で朗読してみて、「関係ない」で終わらせるのではなくて、自分の身近に感じて差別せず、周りの人の理解が大切だと思いました。(神奈川県 10代 学生)
- いろんな人に会えてよかった。これからは自分にできることをしていきたい。(神奈川県 10代 学生)
- 命についても考えるきっかけもつくれたし、たのしいこともできたし、とても充実しました!ありがとうございました!(神奈川県 10代 学生)
- 誉め言葉のシャワーなどで感じた事、HIVの朗読を聞き、心にしみ涙が出そうになった事、これから、この話をし、来年も来たいと思いました。(神奈川県 20代 教育関係)
- 朗読をしている生徒さんたちがとても生き生きキラキラしていて、輝いてみえました。自分もこんな経験したかったなと思います。とても楽しかったです。ありがとうございました。(千葉県 20代 教育関係)
- AIDSへの理解に大変役立った。他の人にも、この会をもっと広めたい。ほめ言葉については、一般生活でそのまま活かせると思うので、会社でもやりたいと思う。来て本当によかった。(神奈川県 30代 派遣社員)
- メッセージの演劇だけでなく、ほめことばのワークショップや歩き方など、人と人が支えあっていくことの大切さについて考えさせられました。(東京都 30代 教育関係)
- AIDSと共に生きる人たちの気持ち、その人たちを支える人たちの気持ち。少しは、自分の人生と交錯させることができたのかな…と思わせられる。本当に素晴らしいワークショップとの出会いでした。ありがとうございました!!!(東京都 30代 教育関係)
- エイズ理解への新しいアプローチとして、とてもよかったです。体温が伝わってきました。(愛知県 40代 教育関係)
- 言葉の持つ重たさ。それを朗読することで立体化して来ました。とてもよい企画だと思いました。(神奈川県 50代 教育関係)



命についても考える
きっかけもつくれた

連絡先: 岡島龍彦 E-mail: tatu-hiko@mpd.biglobe.ne.jp Tel: 070-6656-8860

◆高校生による朗読劇場

主催：県立横浜平沼高校演劇部＋岡島龍彦 (H.I.Voice Act)

HIV/AIDSに影響を受けた様々な人たちの言葉を朗読することから、HIV/AIDSを自分自身の身近な事柄としていく活動

内容：朗読劇場「僕らのとなりのHIV」
意見交換(読み手と観客が輪になって)
ほめ言葉のシャワー

・全員が、自分に贈る「ほめ言葉」を紙に書く→集めて再配布→誰かの「ほめ言葉」が手元に→二人ずつ輪の中央に出て相手に「ほめ言葉」を贈り合う

ほめ言葉を贈って、受け取っての感想交換

・歩く 一人で歩く ・二人で歩く ・目標に向かって二人で歩く
(演劇部生徒を観客に、参加者が人前で歩く体験をする)

単に歩くことも観られているとどこか不安やぎこちなさがある。二人で歩くととても楽に歩ける。さらに目標があると軽やかに歩ける。(仲間がいることの安心感や、目標に向かって同じ方向に歩むことの信頼感を体感し、演劇でも、AIDSの知識でも、伝える時のコツを理解する。)

【この日集まったほめ言葉】

- ・今はものすごく 受験勉強 大変だけど、でもそれをのりこえて頑張ってください。
- ・おつかれ様。でも、そんなにがんばらなくてもいいんだよ。 ・やさしいんだね
- ・自分だけの幸せを見つめ続けていてえらいとおもうよ
- ・とにかく大好き♡ ・たまには甘えてね
- ・頑張ってるね ・あなたは大丈夫
- ・会うと元気になる! ・ありがとう
- ・いつも前向きでおもしろい人 ・頑張ったね
- ・がんばらなくて いいよ♡
- ・あなたがいると楽しくて、そしてホッとするよ
- ・いつもありがとう。おつかれさま
- ・君の頑張る姿すごく素敵だよ
- ・そのままで 大丈夫!

来場者感想：

「朗読ワークショップ」34頁参照

ありがとう



◆Youならどうする？

主催：AIDS文化フォーラムボランティアOB有志



内容:あえてユースに限定して行ったプログラム。身近なストーリーからそれぞれの取るべき行動についてディスカッションし、率直な意見を出し合った。フリートークの形式は新鮮との声もあり、色々な考えに触れられた。が、始めから終わりまでの、段取りが少々悪かったかも知れない…。

来場者感想:

- 今回はAIDSについて、人との関わりを通して学びたいと考えていたので、ディスカッションはとても良い機会になりました。AIDSについての正しい知識や、感染してからどうするか？どうしているのか？という部分が知れたことが一番良かったです。(東京 20代 学生)
- エイズに関して、それぞれ違う意見を持っていることに驚いた。また、こういう活動に参加する人たちの年齢層を低くしなきゃいけないと思った。(10代 神奈川 学生)

連絡先: 桜屋伝衛門 E-mail: toy_toy_0906@yahoo.co.jp

◆世界がもし100人の村だったら ～HIV/AIDSバージョン～

主催：YMCA ACT

YMCA ACTのボランティアメンバー・スタッフからなるワークショップチーム。「もし世界が100人の村だったら」のワークショップをベースとして「データからHIV/AIDSを体感するワークショップ」をテーマに展開。他人ごとではない問題として参加者とともに考える機会を持ちたいという思いから活動をしている。

内容:HIV/AIDSの基礎知識、世界の感染者等の数を分かり易く伝え、ワークショップと学習形式で理解を深めました。

来場者感想:

- 昨年も参加し、2回目になります。今回もとても勉強になりました。ワークショップでワードをつなげた作業で新しい発見がありました。100人村大好きです。
- 参加型のプログラムでとても共感しやすかったです。できればもう少し広い会場でお願いできたらと思います。
- 改めて、今の自分を取り巻く環境が幸せで恵まれているのか・・・100人村のメッセージを聴いて心が痛くなりました。HIV/AIDSについてちゃんと正しい知識を知ることが大切だと思いました。100人村を100人でやりたいです！
- 途中からの参加でしたが「世界が100人の村だったら」は、遠くの出来事を身近に考えるきっかけとなるように思いました。性教育に携わることも多いのでその中で私なりに伝えていきたいと思えます。
- 具体的な数字を見ることが出来勉強になった。意識のある人達と触れ合うことで自分も更に考えることが出来楽しかったです。

連絡先: 横浜YMCA ACT
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-25-1
Tel: 045-316-1881 Fax: 045-314-6805
E-mail: madoka_saito@is.yokohama-ymca.or.jp



参加型のプログラムで
とても共感

◆人身売買への取り組みの5年間とこれから

主催：てのひら～人身売買に立ち向かう会

人身売買問題の現状を一人でも多くの人と共に考え、この人権侵害を放置しない社会の実現をめざしています。

内容:当日は20名近いお客様がお集まりくださいました(感謝!)。また初の試みとして「Ustream(ユーストリーム)」というインターネットの動画配信サイトで、同時配信も行いました。よって、PC上でも20名近い方が参加されました。映像の内容は、前半が人身売買被害者を支援してきた方のお話。後半は、日本政府が人身売買に取り組み始めた2004年を皮切りに人身売買を知り、更に自分たちの日ごろの活動や仕事の中で主に人身売買があ



ることを広く人びとに知らせるという活動をしてきた方々のお話です。映像を鑑賞したあとのディスカッションでは、人身売買の被害者とは誰なのか、何をもちて被害者と捉えていくのかという被害者認定の部分について素朴な質問が挙がりました。ただ、そうした政府機関の取り組みやNGO等の人身売買に第一線で取り組ん

でいる人びとの技術的な進歩、あるいは法律制定などの具体的な対策が進むと同時に、人身売買について知らない人々により多く知らせていくことが不可欠ではないかという意見が挙がりました。そして、ただ知らせるだけでなく、意識の部分で、人の意識を変えていく必要があるのではないか、というところにまで議論は深まりました。

連絡先：てのひら～人身売買に立ち向かう会

〒226-0011 神奈川県横浜市緑区中山町149-4 緑郵便局 留

Tel:050-1445-6947 Fax:020-4624-7480 E-mail:tenohira_ycatip@hotmail.co.jp

http://www.geocities.jp/tenohira_trafficking/



人の意識を

変えていく

必要がある





◆夜回り先生 水谷修

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：水谷修さんと言えば夜回りを通して若者や薬物の問題と関わる専門家として有名です。しかし、若者たちが抱える困難はリストカットやHIV/AIDSを含め、様々な形で表出しています。AIDS文化フォーラム in 横浜ではHIV/AIDSを様々な視点から考えるため、思春期の諸問題に精通している水谷修さんに毎年講演をお願いしています。

来場者感想：

- 本を読んで、ずっと水谷先生に会って話が聞きたいと思っていたので、今日講演会を聞いてとても感謝しました。私自身もいじめられていて、引きこもりになった時期があったので、今日の水谷先生の話聞いて、思い出してしまって涙がでました。でも今はちゃんと大学に行って楽しい生活ができていますので、それはお母さんお父さんが私の事を見守ってくれたからだなぁと思いました。今日は本当にありがとうございました。これからがんばりたいと思いました。(神奈川県 10代 学生)
- 僕は今まで、ぶっちゃけると、暴走族とか、わるいことばっかしている人を「クズ」とか「ゴミ」とか思ってたけど、先生の話聞いてそんなこと思ってた自分が恥ずかしくなった。ただ悪い事している人はいないんだと思うようになった。(神奈川県 10代 学生)
- 今回の話を聞いて思った。自分の生き方を振り返ることができた。人の生きる意味大切さを学べた。1日1日を大切に生きていかなきゃいけないと思った。1日1日を無駄にしないで自分ができることを見つけていきたいと思います。とても心が温かくなりました。この講演はみんなに聞かせてあげたいと思います。(神奈川県 10代 学生)
- 自殺、リストカット…、その裏には、親、周りの大人たちに多くの問題があると思った。水谷先生のたくさんのご経験の中から、子どもたちに何が必要か、自分自身について考えることができた。最後の“自分の命、人生は託されたものだ”というメッセージ、とても心に残りました。(千葉 20代 保健医療関係)
- 私は助産師学校で学ぶ学生です。人との生と死に向き合って、私なりに伝えられることを考えたいです。心に残る講演でした。(埼玉県 20代 学生)
- 貴重なお話をたくさん聞くことができ本当にありがたいです。伺ったお話もまだほんの一例なんだろうと思うと胸が締め付けられる思いです。今日先生から学んだことを自分の体に焼き付けておきます。(栃木県 20代 保健医療関係)
- 非難や否定をするのではなく問題に向き合われている水谷先生のお話に変な感銘を受けました。(神奈川県 30代 NGO・NPO)
- 「夜回り先生」という言葉をはじめで知りました。生きることをもう一度考えてみようと思いました。(東京都 30代 保健医療関係)
- 今回で2回目です。教員です。前ははまだ子どもがいませんでしたが、今はやっと授かった3歳の子がいます。生徒にも子どもにも優しく接したい…と反省です。学校は忙しく、大変ですが、子どもたちの笑顔や優しさ、がんばる姿に私も元気をもらっています。大変だけどすてきな職だと思います。9月からまたがんばりたいです。(神奈川県 30代 教育関係)
- 涙が止まりませんでした。家に帰って子どもにやさしくできる気持ちになれました。ありがとうございました。(京都府 40代 保健医療関係)
- 今回、フォーラムや水谷先生のことを知りましたがもっと色々な職業の方々に流してもらいたいと思いました。美容業をとおして育成に取り組み人の役に立ちながら学び、成長していきたいです。皆さんも頑張ってください。(神奈川県 40代 美容業)
- 言葉に言い表すことのできないほどの、熱心なおことばをありがとうございます。お話を聞かせて頂きありがとうございます。(群馬県 50代)
- 此処10年間、近くの中学の荒れているといわれる生徒たちと付き合ってきました。薬物で苦しむ女性と関わってきました。先生の1人を思う気持ちに打たれました。1人を大切にすることを、改めて学びました。ありがとうございました。(埼玉県 60代以上)

・あなたと会えて
私は幸せだよ。

・大変で
忙しかったのに
よくやった!!

・いつも人のことを
大切に考えているね

・ここにいていいよ

・きみの人生は
最高だね～



◆HIV/AIDS・性を語らないエイズ予防教育

主催：岩室紳也（公益社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター）

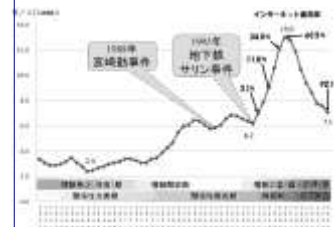
内容：エイズ予防にはノーセックス、コンドーム、検査の3点が大事。でもそれができる人は知識があるからできるのでしょくか。情報提供も大事ですが、いまの時代に求められているものは何か。関係性の再構築とコミュニケーションの大切さを自らの問題として受け止めるには何が必要かを考えるための話題提供を行いました。答えはここにはありません。

来場者感想：

- HIV検査を受ける理由を、リスクなSEXが止められないと答えた30代のゲイです。あいさつの出来ない男はもてない？「おはよう」を言わないカップル・・・そういえば「行ってらっしゃい」「おかえり」は言うけど「おはよう」を言わないカップルがここにもいるなあと思いました。（同居8年のセックスレスゲイカップルです）MSMとして、さまざまな活動をしていて、彼氏もしてて（彼氏はHIV(-)）何故、ウインドピリオドの終わらない状態での定期的な検査を続けているのか・・・きっと依存なのかなと思います。人にはオーラルにもコンドームをすすめなきゃいけない立場で、実はゴムフェラ大嫌い、飲精もしてしまう・・・HIV(+)の知人もいて HIVをコントロールしていく面倒さも多少は知っているつもりなのに・・・心の病なんではしょくか、きっと。（神奈川県 30代 ボランティア）
- 「若者の問題」という切り口でしたが、私自身も含め、大人の問題としても充分に通じる話で、耳が痛いお話ばかりでした。大学生を相手にしていますが、学生の引きこもり体質とともにそこに働きかけられない自分自身の関係性の希薄さも痛感している毎日です。関係性を築くということは、自信回復を助けると同時に、万能感を挫くという働きもあると思いますので、傷つく勇気がなければ踏み出せないことであると感じます。大人の側もいかに若者と関わるか、課題が大きいです。（群馬県 30代 教育）
- タイトル&時間の制約から、性教育の方法論の話かな、と思っていました。ただ、講演を聞いて、氷山の一角だけを取り繕っていても、核心(根)は深くなっていくばかりだなと思いました。今日の講演は、ここに足を運ばなければ聞くことのできなかつた話(当然ですが・・・笑)で、願わくば今日の講演のVTRを渋谷のスクランブル交差点の巨大スクリーンでrepeat playしておきたいと思いました。本当に心に響いた、という感じがしました。ありがとうございました。（群馬県 20代 学生）
- 岩室さんもここへ来たんだな～と思いました。私は子どもへの暴力防止の活動をしている中で、やはりコミュニケーション能力の話や練習をします。いろいろな物事がつながっていることを再認識しました。（神奈川県 50代 教育 NPO）
- 頑張って生きようと思いました。コミュニケーションが大事だとわかっていてもなかなか難しいです。（埼玉県 20代 学生）
- 感動しました。一人ひとりが異なる悩みを持っていて違うということに改めて気づき、心が軽くなった気がします。（神奈川県 10代 学生）
- “人を好きになつたことがない”“人と関わるのが楽しくない”という若者も出てきている中で、SEXの危険性だけを強調する教育ではなく、人のつながりの大切さを伝えていくような、教育の必要性を強く感じました。教育者もつながる中で、自分だけの持ち味、Only oneの教育をめざそうという勇気をいただきました。また、一人だけでオールマイティーではないと知ること、だからこそ人とつながることの大切さ、いろいろな人の教育(アプローチ)の必要性を強く感じる事ができました。（山梨県 40代 教育）
- 始めはあまりに情緒的すぎて期待していた内容ではなかつたなとがっかりしました。でも、問題を俯瞰した「人間関係」という視点や「コミュニケーション力」等は根底にある深い論点だと思いました。ただ、あまりプラクティカルではないので、ちょっとボヤけてしまっている印象。（神奈川県 20代 会社員）

連絡先：岩室紳也 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館15階
公益社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

Tel: 03-5212-9152 Fax: 03-5211-0515 紳也's HP: <http://iwamuro.jp/>



今日の講演のVTRを
渋谷の
スクランブル交差点の
巨大スクリーンで
repeat play して
おきたいと思いました



◆全体会・閉会式「AIDS文化フォーラムin横浜とわたし 他人ごと！？から自分ごとへ」

司会進行：遠見才希子（フォーラムとの出会いから今日まで）



“えんみちゃん”の愛称で親しまれている遠見才希子さんの司会で、桜屋伝衛門さんによるリラクゼーション「笑いの“は・ひ・ふ・へ・ほ”」の後、会場にいる人全員参加の「ほめ言葉のシャワー」を行いました。皆、それぞれ心温まるほめ言葉を交わし、自分自身を認め合い、そして3日間の活動を讃え合いました。

また、えんみちゃん自身がAIDS文化フォーラムin横浜への参加をきっかけに始めたピアエデュケーションはフォーラムでは欠かせないプログラムとなりましたが、学生としての参加は今年が最後。卒業を祝う岩室紳也さんと6年間を振り返った後、更なる飛躍を誓い、会場の皆さんとの再会を約束し、今年の特プログラム終了となりました。



誰かにほめられると

すごく嬉しい



内容:①自分がもらいたい一言を書いた紙を参加者全員で交換し二人組になってお互いに贈るという‘ほめ言葉のシャワー’を行った。②学生として最後の参加となる遠見才希子が、5年前のフォーラムとの出会いからピアとして全国で講演をするようになった今日までを岩室紳也氏とともに振り返るトーク。

年一回自分を再確認できる居場所になっていきます。必ず医師になって成長した姿をこのフォーラムで皆さんに見ていただけるように頑張ります。

(遠見才希子)

来場者感想:

- エイズのこと、何も知らなかったけど、サポートスタッフができて、知ることができて、本当に参加して良かったです。(神奈川県10代学生)
- 誰かにほめられるとすごく嬉しいものだと思います。また、こんなに沢山の方がこのフォーラムのために努力され



たと知っておどろきました。Thank You(神奈川県 10代 学生)

- 「ほめ言葉のシャワーがすごくすてきなと思いました。様々な人とふれあうことができる場があってよいと思いました。(神奈川県 10代 学生)
- 褒め言葉というのは普段言っているようで言っていないんだなとしみじみと思います。もっと言いたい。心がほっこりしました。またえんみさんと岩室先生のお話を聞いて、私も人に自分のことを語れるような場をもちたいな…と思いました。(神奈川県 10代 学生)
- 「ほめ言葉のシャワーがすごく暖かい気持ちになれる企画だと思いました。人にほめられ、人をほめ、疲れてしまった時は自分で自分をほめてあげたいと思います。(神奈川県 10代 学生)
- 今年も楽しいフォーラムでした。出会い・縁を感じられる場、再会の場、毎年楽しみに参加しています。来年もまた来たいです。よろしくお願ひします。(長野県 20代 福祉関係)
- 「はひふへほの笑い」すてきでした～♡ えんみちゃんの“想い”つながっていきますね!! 皆様お体気をつけてがんばって下さい!! 私もがんばります! ありがとう♡♡♡(埼玉県 30代)
- えんみちゃんの歴史とこのフォーラムとの重なり合いが良く分かってよかった。医学の勉強と、このフォーラムと、日本各地での講演活動を並行させるのは、並大抵の苦勞ではなかったと思います。これらの苦勞を支えたものは、えんみちゃんにとって何だったのでしょうか。ブログで教えて下さい。(埼玉県 40代 教育関係)



出会い・

縁を感じられる場、

再会の場



展示プログラム (1階展示会場)

◆アジアの女性と子どもネットワーク

アジアの中でも社会的に弱い立場にある女性と子どもの権利を守るための活動を教育支援を中心に続けている。



内容: 展示コーナーでは、タイ山岳民族の現状とAWCの活動について紹介し、山岳民族の伝統的な美しい刺繍や織物を使った手工芸品やストリートチルドレンが作ったビーズアクセサリなどを紹介・販売しました。ご来場いただいた方から刺繍の細かさ、色合いの美しさ、繊細さについて驚きの感想をたくさんいただきました。これからも私たちは社会的に弱い立場にある女性や子どもたちの権利を守るための活動を続けてまいります。

連絡先: アジアの女性と子どもネットワーク 〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39
尾上町ビル9F YAAIC内 Tel.045-650-5430 Fax 045-650-5430
E-mail: awc@h6.dion.ne.jp http://www.awcnetwork.org

◆アーニ出版・性を語る会

テーマ: 知っていますか?

小学校「保健」教科書(5、6年生用)のエイズ予防教育

「性を語る会」は、1987年、性教育やエイズ学習を实践する北沢杏子を代表として発足。東京・世田谷区用賀のアーニ出版内のアーニホールを拠点に、性やエイズに関するシンポジウム、セミナーなどを開催しています。JICAなどを通しての海外からの研修も多い。機関紙『あなたとわたしと性』を季刊発行(原稿94号)し、性、エイズ、障害者問題などに関する新しい情報を会員に提供しています。

内容: 現行の小学校保健教科書(5、6年生用)には、エイズ予防と理解に各社1~2ページを割いています。しかし、いずれの教科書にも、感染経路は「HIVはきず口などから体の中に入る」と記され、内1社は丁寧に肩口の傷からHIVが入るイラストまで掲載しています。さて、来年度(2011年)は教科書が変わる年で、新教科書はどうでしょうか。

「HIVが、血液などを通して、からだの中に入る」と記されています。人差し指の傷口からHIVが入るイラストを添えているものもあります。残念ながら内容に何の進展もない教科書をまた数年間使用することになるのです。

こうした教科書で学ぶことは、「性交で感染するわけではないんだ」と、かえって誤った知識を抱くことになりかねませんし、防ぐ方法も曖昧になります。小学校段階から、HIVは血液、精液、ちつの分泌液、母乳に含まれ、主な感染経路は性交であることをきちんと教え、さらにゴムの帽子(コンドーム)で予防できることもしっかり伝えなければならないと思います。今回は、問題提起のパネル展示になりましたが、併せてアーニ出版発行のエイズに関する絵本、DVD、教材も紹介しました。

連絡先: アーニ出版 長谷川瑞吉
〒158-0097 東京都世田谷区用賀3-5-6
Tel: 03-3708-7323 Fax: 03-3708-7324
E-mail: hasegawa@ahni.co.jp



かえって

誤った知識を

抱くことに

◆ATAC in NARA(田村猛夏・畠山雅行・真鍋美江・梶育世・勝治奈緒美)

テーマ：エイズと結核と感染症の謎

①ATAC(ANTI TUBERCULOUSIS ASSOCIATION CONFERENCE)は、結核やエイズやその他感染症をこれ以上広めないために各分野の専門家が集い教育・研究・研修を行うものです。②目的に賛同する人は誰でも参加できます。③事例のカンファレンスを行う。④啓発活動を行う。⑤アンケートを取り評価を行う。

内容:エイズ・結核・その他感染症の予防と早期発見と治療のためには病気についてみんなで楽しく学習することです。展示とアンケートによる第三者評価の実施。

◇アンケートの結果: 総計196名回答。(男47名・女139名・不明10名)

結核アンケート結果: 全13問。平均正解率51.9%。問い6&7「肺結核の症状は、風邪によく似た症状である。」・「咳症状のある人はマスクなどで口を覆うことが大切である。」は同率の正解率73%で最高でした。問い4「結核に感染した人の約10人に1人が発病する。」は正解率32%で最低でした。

エイズアンケート結果: 全13問。平均正解率75%。問い7は正解率86%で最高でした。次に高い正解率は83%で問い12「コンドームを正しく使うとHIV感染を防ぐことができる。」でした。問い8は正解率62%で最低でした。次に低い正解率は63%で問い10「STDに感染しているとHIV感染の確立が高まる」でした。

◇アンケートの評価: エイズアンケートの正解率は高く回答者のエイズに関する理解度は高い事が推察されます。一方、結核アンケートでは正解率は比較すると低く回答者の結核に関する理解度は低い事が推察されます。年代による正解率の差もみられました。結核アンケートでは50歳代の正解率が比較的高く、一方、エイズアンケートでは正解率が低い10歳代を除いて、20歳代から50歳代までは平均を上回っていました。

◇まとめ: 今後はエイズのみならずその他の性行為感染症や結核などの感染症についても参加者に正しい知識を伝える必要があるとアンケートの分析と評価から考えられました。参加者や社会の関心を高めるために、AIDS文化フォーラムにまた来年も参加いたします。

連絡先: 代表者 畠山雅行 Fax:0743-78-9841 E-mail: m-hatake@m4.kcn.ne.jp

◆ABCD in NARA (畠山雅行・真鍋美江・梶育世・勝治奈緒美)

テーマ：がん(乳がん)とエイズとの謎

ABCD(ANTI BREST CANCER DISCUSSION CONFERENCE)は、乳がんの予防と早期発見と治療について理解を広める活動を行います。

内容:①女性に特有の癌(乳がん)についてみんなで楽しく学習しながら「乳房乳がんモデル」の展示と第三者評価のためにリプロダクティブヘルス・ライツを含めたアンケートを実施。②目的に賛同する人は誰でも参加できます。③乳がん死亡を減らすために各分野の専門家が集い教育・研究・研修を行う。

◇アンケートの結果: 総計196名回答。(男47名・女139名・不明10名)

がんアンケート結果: 全13問。平均正解率62.4%。問い9「乳がんの最善の対策方法は早期発見と早期治療です。」は正解率80%で最高でした。問い8「残念ながら乳がんの予防方法はありません。」は正解率42%で最低でした。

エイズアンケート結果: 全13問。平均正解率75%。問い7「保健所でHIV抗体検査は「無料」「名前を言わない」で受けることができる。」は正解率86%で最高でした。次に高い正解率は83%で問い12でした。問い8「HIVに感染したと思いがたるときには、感染したと思われる日から3ヶ月以降にHIV抗体検査を受けた方が正確な結果がでる。」は正解率62%で最低でした。次に低い正解率は63%で問い10でした。

◇アンケートの評価: エイズアンケートの正解率は高く回答者のエイズに関する理解度は高い事が推察されます。一方、比較すると「がん」アンケートでは正解率は低く回答者の乳がんに関する理解度は低い事が推察されます。年代による正解率の差もみられました。がんアンケートでは40歳代と50歳代の正解率が比較的高く、一方、エイズアンケートでは正解率が低い10歳代を除いて20歳代から50歳代までは平均を上回っていました。

◇まとめ: 今後はエイズのみならず女性に特有の癌(乳がんや子宮がん)についても参加者に正しい知識を伝える必要があるとアンケートの分析と評価から考えられました。リプロダクティブヘルス・ライツについても、参加者や社会の関心を高めるためにAIDS文化フォーラムにまた来年も参加いたします。

連絡先: 代表者 畠山雅行 Fax:0743-78-9841

E-mail: m-hatake@m4.kcn.ne.jp



◆てのひら～人身売買に立ち向かう会

人身売買問題の現状を一人でも多くの人と共に考え、この人権侵害を放置しない社会の実現をめざしています。

内容:今年のフォーラムでも、日本における人身売買問題の啓発を行うために、いくつかのデータに基づく展示を行いました。日本で人身売買被害に遭っている被害者の推移やなぜ被害が生まれてしまうのか、その他人身売買被害を取り巻く様々な状況について、パネルを用いて展示を行いました。また、タイで人身売買の被害をなくすために活動している北タイのあるNGOの紹介も行い、そのNGOの女性グループが生産して

いる手織り物製品の販売も行いました。ただ、残念なことにブースを出展する団体や全体的な参加者数は年々減少気味です。さまざまな要因があるようですが、やはり大切な問題をいくつも扱うイベントであるので、出展する私たちももう少しPRして、お客さんを集めないとならないと、3日間出展しながらしみじみと感じ、メンバーとも分かち合いました。

連絡先: てのひら～人身売買に立ち向かう会

〒226-0011 神奈川県横浜市緑区中山町149-4 緑郵便局 留

Tel:050-1445-6947 Fax:020-4624-7480

E-mail:tenohira_ycatip@hotmail.co.jp

http://www.geocities.jp/tenohira_trafficking/



◆カリタスジャパンHIV/AIDSデスク

テーマ: カトリックのHIV/AIDS啓発活動の紹介

カトリック教会は1995年からHIV/AIDS問題に取り組み始め、2003年から現在のデスクが学校や教会で啓発を開始しました。2010年9月からは「カリタスジャパン」から独立して活動することになりました。

内容:4年目になるフォーラム参加で、レッドリボンと十字架を組み合わせたオリジナル・デザインのストラップやビーズバッジを展示して、「“他人事”意識から抜け出そう！」と提示しました。2009年の世界エイズデーに発表したポスターや、赤い小冊子『HIV/AIDSと性教育』や最新のカリタスジャパンニュースを配布しました。2008年・2009年と2年連続で登場した2体の人形(オーストラリアの製品)を初日は展示していませんでした。しかし、他の展示団体から「初参加のボランティアに見せたい」という希望があり、2日目にあわてて持ち込みました。それ以降は、来場者に人形の性別クイズを出したり、話のきっかけになったり活躍しました。

来場者の声:

- レッドリボンのストラップはお土産やプレゼントにぴったり。
- 中学校、高校で訪問授業をしている保健師ですが、資料を集めに来ました。
- 自分の国、タイでもカリタスが活躍しています。

連絡先: カトリック中央協議会 社会福音化推進部 HIV/AIDSデスク

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館

Tel.03-5632-4413 Fax03-5632-4461

E-mail: hivaids@cbcj.catholic.jp <http://www.cbcj.catholic.jp/>



“他人事”意識から

抜け出そう！

◆日本ハビタット協会

テーマ: AIDS孤児に安全な家と水を

国連ハビタットを支援、協力して、世界中の人々が安心して安全に暮らすことができるように広報や募金活動を実施。

内容:アフリカのAIDS孤児の現状を写真やDVD報告。参加者に当団体の募金箱に寄せられた外貨コインの分別作業を通して、アフリカのAIDS孤児の現状を学ぶワークショップを常時開催。昨年、ケニヤ、ウガンダ、タンザニアにおいて完成した雨水タンクの写真を展示。当団体が実施する事業の報告が記載されたニューズレターの配布。



感想:

- 気軽に参加できる外貨コイン分けを通して、小学生から大人まで多くの方々に国際協力を体験してもらう事ができた。
- アフリカのAIDS孤児の現状を絵本に作成し、DVDを常時上映したが、来場者がゆっくり見て下さり、AIDS問題への理解を深めることに役立った。
- 展示写真を見ていただき、AIDS問題やAIDS孤児の現状を説明することにより、そのような問題を改善、解決するための支援の必要性を理解していただくことができた。
- 募金箱に寄せられた外貨コインを来場者に分別していただくことにより、募金を有効活用することができるようになった。

連絡先: NPO法人 日本ハビタット協会

〒102-0083 東京都千代田区麴町1-12 ふくおか会館1F

Tel:03-3512-0355 Fax:03-3512-0358

E-mail: info@habitat.or.jp <http://www.habitat.or.jp>

世界中の人々が

安心して

安全に暮らす

◆ワトト・ジャパン

内容:1994年にカナダ人宣教師、ゲアリー・マーリーンスキナー牧師夫妻によってウガンダのカンパラ市街地で始まった「ワトト・チャイルドケア・ミニストリー」はエイズや内戦で親を失った子ども達を助けています。そのワトト村の孤児で結成された「ワトト・チルドレンズ・クワイア」は2008年5月に初来日し、以来毎年、日本の各地において「ワトト希望のコンサート」を開催し、人々に希望の灯をともし続けています。

また、エイズ孤児の支援だけではなく、内戦のために荒れ果てた北ウガンダのグル市における「トラウマカウンセリング」やHIVの未亡人の母親への技術支援を行う「リビングホープ」のプロジェクト、ワトト村に入る前の乳幼児を助ける働きを担う「ベイビーワトト」など、多岐にわたる支援を行っています。このようなワトトの活動やコンサートの映像を、PPTとDVDで紹介させて頂きました。



連絡先:「ワトトジャパン」

〒106-0032 東京都港区六本木7-20-8-1201

TEL/Fax 03-5775-3747

E-mail: japan@watoto.com

<http://www.watoto.jp>

◆(財)日本ユニセフ協会神奈川県支部

募金活動や啓発活動をとおして、世界の子どもたちの命と健康を守るunicefの支援を行っています。unicefは子どもたちをHIV/エイズの危機から守る活動を世界規模で展開しています。

内容:ユニセフとWHO(世界保健機関)が開発したHIV母子感染防止パック(HIV陽性の妊産婦用の薬キット。このキットを使用することで生まれてくる子どものHIV感染を防げます)のご紹介とレトでの支援事例を写真パネルでご紹介しました。このHIV母子感染防止パックを支援ギフト(現地の支援に用いられる特定の物資の購入費用をご支援していただくものです)としてもご支援いただけることをあわせてご紹介いたしました。また、ザンビアでの子どものHIV/エイズ事情と母子感染防止プログラムをご紹介したユニセフニュースの記事、チラシ、ユニセフ・グッズのカタログを配布しました。会場では「子どもとエイズ」世界キャンペーン指定募金を募り、ユニセフ・グッズ(ご購入いただいた商品代金の約半額がユニセフ募金になります)の頒布を行いました。参加したスタッフからはユニセフを信頼して募金を寄せてくださる方の姿が印象に残ったとのコメントがありました。

連絡先:(財)日本ユニセフ協会神奈川県支部
〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-6-23
金子第2ビル3F
Tel: 045-473-1144 Fax:045-473-1143
E-mail: sibu@unicef-kanagawa.jp



いろいろな方々と
交流することができます

◆横浜AIDS市民活動センター

HIV/AIDSの情報提供、書籍・パネル貸出、ニュースレター発行、HIV/AIDS予防啓発、HIV/AIDS関連活動団体への支援金交付など行っています。

内容:今年も、横浜AIDS市民活動センターのマスコット“コムちゃん”と一緒に参加しました。横浜AIDS市民活動センターの活動紹介を掲示したり、無料提供しているパンフレットの一部分紹介や配布、ニュースレター“おーぷん”の配布などを行いました。AIDS文化フォーラムを通して横浜AIDS市民活動センターや“コムちゃん”のことを、たくさんの方に知っていただいていることが実感でき、とてもうれしく思いました。開催期間中にいろいろな方々と交流することができ、良い経験をする事が出来ました。

連絡先:
横浜AIDS市民活動センター
〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9階
Tel: 045-650-5421
Fax: 045-650-5422
E-mail: info@yaaic.gr.jp
<http://www.yaaic.gr.jp>



◆神奈川県立舞岡高等学校 茶道部 「一盃のお茶から」

内容: 呈茶 入場者 160人

8月6日(金)、7日(土)の2日間、展示会場にて、抹茶とお菓子を提供させていただきました。たくさんの方々にお越しいただき、大変感謝しております。来場者の皆様方からは、「とても美味しいです」「お上手ですね」「頑張ってください」など、温かい言葉をいただきました。生徒たちも、日ごろの成果を発揮することで、それぞれ今後の活動への自信につながったのではないかと考えております。また、呈茶の間を利用して、AIDSやHIV、性感染症などについてのさまざまなプログラムに参加したことで、生徒一人ひとりが積極的に学び、考えることのできるよい機会になったと思います。なお、利益の5,020円は『(財)日本ユニセフ協会・ユニセフ募金』へ全額寄付させていただきました。

関係の皆様方のご尽力とご配慮に深く感謝しております。

連絡先: 神奈川県立舞岡高等学校 茶道部 顧問 小倉奈津子
〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡3-36-1
Tel: 045-823-8761



とても美味しいです



◆ニバルレキレ事務局

ニバルレキレ (ngibalulekile) はズールー語で「あなたはあなたであるだけで素晴らしい」の意味。南アフリカ共和国でエイズとともに生きる人々を支援すると同時に、タウンシップと日本を結び人々の暮らす姿を伝えるワークショップや展示会を各地で行っている。

内容: 2004年にはじまった公費によるARV治療。いまだ平均寿命は40代で推移し失業率の高さも人々を悩ませている南アフリカ共和国。サッカーワールドカップによって見聞きした、豊かさや社会問題、いろいろな疑問を感じた方が来場してくださいました。HIV陽性者の暮らしは? 生きる力強さはどこから生まれてくるの? 性の教育はどうなっているの? 社会問題は、とくに治安は? 医療現場は? 草の根の活動は? 日本の私たちにできることは? など..。

連絡先: 〒026-0025 東京都多摩市永山3-1-14-205 小山方
ニバルレキレ事務局
Tel: 03-3834-6902 (アフリカ日本協議会・斉藤宛)
Tel: 090-1707-2296 (小山) <http://d.hatena.ne.jp/ngibalulekile/>



◆横浜YMCA

テーマ：タイ・バンコクYMCA協働プロジェクト

「プロテクト・ア・チャイルド」取り組み紹介

内容：支援先であるタイ北部のパヤオセンターでは人身売買の危機に直面した子どもたちのために、またバンコク近郊のハッピーホームでは困難な状況にあるエイズ孤児のために教育・自立支援を行っています。ブースではパヤオセンターで生活する子どもたち、そして周辺村民によるハンディクラフトを販売しました。背面ボードには、生き活きとした子どもたちの写真を並べ大変明るい雰囲気になりました。運営にはプロジェクトを支援するボランティアの他、一時帰国中の施設ボランティアスタッフや横浜YMCAで長期研修中のバンコクYMCAスタッフらが携わり、タイの現状を熱心に聞く来場者に説明するとともに交流の機会を持ちました。



連絡先：横浜YMCA 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7

Tel: 045-662-3721 Fax: 045-651-0169 E-mail: kokusai@yokohama-ymca.or.jp

◆エイズ予防のための戦略研究MSM首都圏グループ

テーマ：「REAL Living Together」～ありのままの現実

内容：戦略研究が作製してきた資料は、HIV感染症の現状に即した最新の情報をわかりやすく伝えること、陽性者の綴った手記を用いてHIVが身近な存在である現状を伝えること、受け取る対象の多様性に合わせた内容であること、デザイン性に富んだものであること、等に配慮して作製しています。主な展示物は以下の通りです。

REAL: HIV陽性者の手記と共に、HIV感染についてのup to dateな情報やリソースを集めた冊子

FACE TO REAL: キース・ヘリング財団の協力の基に、HIV感染の基本知識をキースのイラストと一緒に掲載したパンフレット。当日は同内容のポスターの展示も行った。

Ready Go!: 聴覚障がいを抱えるゲイを対象に、HIV感染の基本情報を手話を用いて伝えた冊子

ボクライフ: 若年のゲイを対象に、セクシュアリティやゲイライフと共にHIV感染症について解説した冊子

This is hope: HIV感染と依存症との関わりの視点から、様々な依存を抱えた人たちの手記と依存症についてのリソースを紹介した冊子

HAVE A NICE SEX!: HIV感染のおこるメカニズムから、セーフターセックスの方法について解説した冊子

資料についての問い合わせ:

コミュニティセンターakta Tel: 03-3226-8998 E-mail: info@rainbowring.org 担当: 荒木

かながわレインボーセンターSHIP Tel: 045-306-6769 E-mail: ship@y-cru.com

担当: 星野

タイの現状を

熱心に聞く来場者



◆NPO法人子宮頸がんを考える市民の会

内容:30代がピークの子宮頸がん。がんにしては珍しく、原因が解明されています。その原因は発がん性ヒト・パピローマウイルス(HPV)がセックスにより感染し持続感染を稀に起こすことによりがんへと発展していきます。子宮頸がん検診を受診することにより、がんの手前から発見可能なのですが検診受診率は先進国中、最低の受診率です。それにより若い女性が子宮を失ってしまったり亡くなってしまったりしています。この問題を解決するにあたり、子宮頸がん予防のため検診受診を奨励しHPVワクチンの理解を求める活動紹介を行いました。同時に予防啓発パネル貸し出しのご案内やLOVE49(しきゅう)プロジェクトの紹介、アーティストさんと作成した予防読本の無料配布を行いました。セクシャルヘルスに興味がある方々が集まるAIDS文化フォーラムin横浜で啓発活動が更なる科学的な情報の普及に繋がっていけばと考えています。

連絡先:NPO法人 子宮頸がんを考える市民の会
〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1-12-1-202
Tel: 03-5821-2151 Fax: 03-5821-2156
E-mail: watanabe@orangeclover.org <http://www.orangeclover.org/>



更なる科学的な情報の
普及に繋がっていけば





“好き”には、
いろいろな
カタチがあります





◆神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課
夏のレッドリボン月間展示

内容:AIDS文化フォーラムin横浜に合わせて「夏のレッドリボン月間イベント」を8月3日(火)～8日(日)に開催しました。今年度でAIDS文化フォーラムが17回目を迎えるにあたり、時と共に関心が薄れ、風化しつつあるHIV/AIDSの歴史を振り返り、再認識するとともに、若い世代にAIDSに関心を持ってもらう一歩として、期間中、横浜AIDS市民活動センター所蔵のHIV/AIDS関連の新聞記事1983年～1994年分を抜粋いただき、第1部として展示しました。(来年度第2部として1995年～2010年を展示予定です。)また、HIV/AIDS統計情報の展示、神奈川県独自作成の高校生向冊子『ForYou』や中学生向冊子『じぶんたいせつぶっく』、神奈川県内の検査場所一覧やセクシャルマイノリティ関連冊子などのHIV/AIDSに関する情報冊子と協賛いただいたコンドームのサンプルを提供しました。STOP AIDS基金(エイズ財団)への募金活動も行いました。

連絡先:神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課感染症対策グループ
〒231-8588 横浜市中区日本大通1 Tel:045-210-4793

風化しつつある
HIV/AIDSの歴史を
振り返り、再認識する



第17回AIDS文化フォーラム in 横浜
特別展示企画

新聞で振り返る HIV/AIDS

(~1994年)

国際エイズ会議
&
第1回AIDS文化フォーラム in 横浜
まで

1983年6月10日
朝日新聞

奇病 AIDS 厳戒

【東京10日朝日新聞】エイズ(免疫不全症候群)の患者が急増していることが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、エイズを「奇病」として厳戒を呼び出している。

厚生省の調査によると、エイズの患者数は、1982年から1983年にかけて、約100人から約1,000人に急増した。これは、エイズが「奇病」として知られるようになった最初の時期に相当する。

厚生省は、エイズの感染経路として、輸血、注射、性交渉などを挙げており、特に輸血による感染が問題視されている。厚生省は、輸血によるエイズ感染を防ぐために、献血者の健康状態を厳格にチェックするよう呼び出している。

また、注射による感染も問題視されており、注射器の共用や、注射針の再利用などが問題となっている。厚生省は、注射器の共用を厳禁し、注射針の再利用も禁止している。

性交渉による感染も問題となっており、特に安全性行為の普及が求められている。厚生省は、安全性行為の重要性を広く周知し、安全性行為の普及を促している。

日本にも真性エイズ

【東京10日朝日新聞】日本にも真性エイズ(免疫不全症候群)が感染していることが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、真性エイズの感染経路として、輸血、注射、性交渉などを挙げており、特に輸血による感染が問題視されている。

厚生省の調査によると、真性エイズの患者数は、1982年から1983年にかけて、約100人から約1,000人に急増した。これは、真性エイズが「奇病」として知られるようになった最初の時期に相当する。

厚生省は、真性エイズの感染経路として、輸血、注射、性交渉などを挙げており、特に輸血による感染が問題視されている。厚生省は、輸血による真性エイズ感染を防ぐために、献血者の健康状態を厳格にチェックするよう呼び出している。

また、注射による感染も問題となっており、注射器の共用や、注射針の再利用などが問題となっている。厚生省は、注射器の共用を厳禁し、注射針の再利用も禁止している。

性交渉による感染も問題となっており、特に安全性行為の普及が求められている。厚生省は、安全性行為の重要性を広く周知し、安全性行為の普及を促している。

エイズに有望な治療薬

【東京10日朝日新聞】エイズに有望な治療薬が開発されたことが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、この治療薬がエイズの感染を抑制する効果があるとしている。

厚生省の調査によると、この治療薬は、エイズの感染を抑制する効果があることが確認された。これは、エイズの治療に大きな進展をもたらす可能性がある。

厚生省は、この治療薬の効果をさらに検証するため、臨床試験を実施している。臨床試験の結果が好ましい場合は、この治療薬がエイズ治療の標準薬として採用される可能性がある。

厚生省は、この治療薬の普及を促すために、医師への研修を実施している。また、患者への啓発活動も実施している。

1985年3月21日
朝日新聞

2患者、既に死亡

【東京21日朝日新聞】エイズに感染した2人の患者が、既に死亡したことが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、エイズの致死率が高まっていることを示している。

厚生省の調査によると、エイズに感染した2人の患者が、既に死亡したことが確認された。これは、エイズの致死率が高まっていることを示している。

厚生省は、エイズの致死率を低減するために、治療法の改善を求められている。また、エイズの感染予防も重要な課題となっている。

1986年1月24日
朝日新聞

ウイルス増殖抑制

【東京24日朝日新聞】エイズウイルスの増殖を抑制する効果があることが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、この効果がエイズ治療に役立つとしている。

厚生省の調査によると、エイズウイルスの増殖を抑制する効果があることが確認された。これは、エイズ治療に役立つ可能性がある。

厚生省は、この効果を検証するため、臨床試験を実施している。臨床試験の結果が好ましい場合は、この効果がエイズ治療の標準薬として採用される可能性がある。

エイズ(日本女性から)初感染

【東京21日朝日新聞】日本女性からエイズに感染したことが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、エイズが日本女性にも感染していることを示している。

厚生省の調査によると、日本女性からエイズに感染したことが確認された。これは、エイズが日本女性にも感染していることを示している。

厚生省は、エイズが日本女性にも感染していることを示すために、安全性行為の普及を促している。また、エイズの感染予防も重要な課題となっている。

国内初の母子感染

【東京19日朝日新聞】国内初の母子感染が確認されたことが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、母子感染のリスクを低減するために、妊婦への検査を呼び出している。

厚生省の調査によると、国内初の母子感染が確認されたことが確認された。これは、母子感染のリスクを低減するために、妊婦への検査を呼び出している。

厚生省は、母子感染のリスクを低減するために、妊婦への検査を呼び出している。また、母子感染の感染予防も重要な課題となっている。

エイズ(日本女性から)初感染

【東京21日朝日新聞】日本女性からエイズに感染したことが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、エイズが日本女性にも感染していることを示している。

厚生省の調査によると、日本女性からエイズに感染したことが確認された。これは、エイズが日本女性にも感染していることを示している。

厚生省は、エイズが日本女性にも感染していることを示すために、安全性行為の普及を促している。また、エイズの感染予防も重要な課題となっている。

エイズ感染千人超す

【東京20日朝日新聞】エイズに感染した患者数が、千人を超えたことが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、エイズ感染の増加を懸念している。

厚生省の調査によると、エイズに感染した患者数が、千人を超えたことが確認された。これは、エイズ感染の増加を懸念している。

厚生省は、エイズ感染の増加を懸念している。エイズ感染の増加を抑制するために、安全性行為の普及を促している。また、エイズの感染予防も重要な課題となっている。

エイズ 女性の感染者は若い世代に集中

【東京28日朝日新聞】エイズに感染した女性の感染者が、若い世代に集中していることが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、若い世代へのエイズ感染予防を呼び出している。

厚生省の調査によると、エイズに感染した女性の感染者が、若い世代に集中していることが確認された。これは、若い世代へのエイズ感染予防を呼び出している。

厚生省は、若い世代へのエイズ感染予防を呼び出している。若い世代へのエイズ感染予防を促すために、安全性行為の普及を促している。また、エイズの感染予防も重要な課題となっている。

エイズ 女性の感染者は若い世代に集中

【東京28日朝日新聞】エイズに感染した女性の感染者が、若い世代に集中していることが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、若い世代へのエイズ感染予防を呼び出している。

厚生省の調査によると、エイズに感染した女性の感染者が、若い世代に集中していることが確認された。これは、若い世代へのエイズ感染予防を呼び出している。

厚生省は、若い世代へのエイズ感染予防を呼び出している。若い世代へのエイズ感染予防を促すために、安全性行為の普及を促している。また、エイズの感染予防も重要な課題となっている。

エイズの女性死ぬ

【東京11日朝日新聞】エイズに感染した女性が死亡したことが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、エイズに感染した女性の死亡率が高まっていることを示している。

厚生省の調査によると、エイズに感染した女性が死亡したことが確認された。これは、エイズに感染した女性の死亡率が高まっていることを示している。

厚生省は、エイズに感染した女性の死亡率が高まっていることを示すために、治療法の改善を求められている。また、エイズの感染予防も重要な課題となっている。

陽性反応あれば医療機関を紹介

【東京11日朝日新聞】エイズに感染した患者が、医療機関を紹介されたことが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、エイズに感染した患者の医療機関を紹介する仕組みを整えている。

厚生省の調査によると、エイズに感染した患者が、医療機関を紹介されたことが確認された。これは、エイズに感染した患者の医療機関を紹介する仕組みを整えている。

厚生省は、エイズに感染した患者の医療機関を紹介する仕組みを整えている。エイズに感染した患者の医療機関を紹介するために、医師への研修を実施している。また、エイズの感染予防も重要な課題となっている。

エイズ感染の疑い

【東京20日朝日新聞】エイズに感染した患者の疑いがあることが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、エイズに感染した患者の疑いがあることを示している。

厚生省の調査によると、エイズに感染した患者の疑いがあることが確認された。これは、エイズに感染した患者の疑いがあることを示している。

厚生省は、エイズに感染した患者の疑いがあることを示すために、検査を実施している。検査の結果が好ましい場合は、エイズに感染した患者の疑いがあることが確認される可能性がある。

決意の証言、目に涙

【東京14日朝日新聞】エイズに感染した患者の証言が、目に涙を誘ったことが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、エイズに感染した患者の証言を重視している。

厚生省の調査によると、エイズに感染した患者の証言が、目に涙を誘ったことが確認された。これは、エイズに感染した患者の証言を重視している。

厚生省は、エイズに感染した患者の証言を重視している。エイズに感染した患者の証言を重視するために、医師への研修を実施している。また、エイズの感染予防も重要な課題となっている。

エイズ予防法案を撤回せよ

【東京14日朝日新聞】エイズに感染した患者の証言が、目に涙を誘ったことが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、エイズに感染した患者の証言を重視している。

厚生省の調査によると、エイズに感染した患者の証言が、目に涙を誘ったことが確認された。これは、エイズに感染した患者の証言を重視している。

厚生省は、エイズに感染した患者の証言を重視している。エイズに感染した患者の証言を重視するために、医師への研修を実施している。また、エイズの感染予防も重要な課題となっている。

安全配慮、意のた

【東京28日朝日新聞】エイズに感染した患者の証言が、目に涙を誘ったことが、厚生省の調査で明らかになった。厚生省は、エイズに感染した患者の証言を重視している。

厚生省の調査によると、エイズに感染した患者の証言が、目に涙を誘ったことが確認された。これは、エイズに感染した患者の証言を重視している。

厚生省は、エイズに感染した患者の証言を重視している。エイズに感染した患者の証言を重視するために、医師への研修を実施している。また、エイズの感染予防も重要な課題となっている。

1987年1月11日
朝日新聞

1987年2月10日
神奈川新聞

1987年2月5日
日本経済新聞

1987年11月19日
神奈川新聞

1988年2月20日
毎日新聞

1988年2月14日
毎日新聞

1988年2月20日
産経新聞

1988年2月20日
読売新聞

1988年4月14日
朝日新聞

1988年2月14日
毎日新聞

1988年2月20日
産経新聞

1988年2月20日
読売新聞

1989年10月28日
朝日新聞

1989年10月28日
朝日新聞

1990年11月28日
朝日新聞

1990年12月13日

1991年11月9日
朝日新聞

1991年11月22日 朝日新聞



エイズの苦しみを直接訴え

「エイズの苦しみを直接訴え」

エイズ患者の苦しみや、家族の悩み、社会の偏見などを、俳優らが演じて訴えた。観客は涙を流し、大きな拍手を送った。

1992年9月20日 毎日新聞

エイズの恐怖 保健所大忙し

「検査して」1年で10倍

「検査して」1年で10倍

保健所の検査回数が1年で10倍に増加した。市民の健康意識の高まりが背景にある。

1992年9月22日 読売新聞

高校生へ配布「待った」

避妊具 エイズ講演の医師が用意

学校側は大あわて

避妊具の配布に学校側が反対し、医師が用意した。議論が巻き起こった。

エイズ対策 初のキャンペーン

1992年10月3日 朝日新聞

「エイズ対策」初のキャンペーン

文部省が教材

文部省が教材として採用した。初のキャンペーンとして実施された。

1993年1月19日 読売新聞

隠さずに エイズ予防と性教育

「命にかかぬ大事なことです」

コンドームも堂々と登場

性教育の重要性を訴え、コンドームの重要性も強調された。

1993年1月20日 産経新聞

又任かやつなさ

ストップ「エイズ」

資金集めに奔走 猛進強も

資金集めに奔走し、猛進強も。エイズ対策の重要性を訴えた。

1993年11月26日 読売新聞

エイズ啓発で慈善コンサート

今更にも助ける 愛の共鳴

孤獨思い 共生訴え

エイズ啓発を目的とした慈善コンサートが開催された。

1994年1月12日 神奈川新聞

みんな 主役さ 立ち上がろう

「エイズを克服しよう」

差別ない社会へ

メッセージも募集

差別のない社会を目指し、メッセージ募集が行われた。

1994年2月6日 神奈川新聞

市民参加で学ぶエイズ

演劇、討論会など企画

国際会議に合わせ

夜間のエイズ検査OK

市民参加型のエイズ教育プログラムが企画された。

1994年4月6日 読売新聞

エイズ理解の浅さ痛感

役作りで人生観変わった

患者と自分の共感も発見

エイズ理解の浅さを痛感し、役作りを通じて人生観が変わった。

1994年7月26日 神奈川新聞

長間も活発に

草の根レベルで

市民の参加を期待

長間も活発に活動し、草の根レベルでの活動が期待されている。

1994年8月6日 読売新聞

イベントも多彩に

市民の参加を期待

多岐にわたるイベントが開催され、市民の参加が期待されている。

1994年8月8日 日本経済新聞

エイズ会議開幕

アジア初 国際機関から参加

エイズ会議が開幕し、アジア初の国際機関からの参加があった。

1994年8月8日 産経新聞

横浜から世界へアピール

メモリアルキルト640枚を展示

同性愛者らデモ行進

横浜から世界へアピールし、メモリアルキルト640枚を展示した。

1994年8月12日 産経新聞

市民の協力大きな成果

今後の取り組みに課題

市民の協力による大きな成果を挙げ、今後の取り組みに課題がある。

1994年8月12日 産経新聞

市民の参加を期待

「志を継いでいきます」

市民の参加を期待し、「志を継いでいきます」というメッセージが送られた。

フォーラム全体集計表

◆2010年全体集計表

1. AIDS文化フォーラム in 横浜を何で知りましたか？ (複数回答あり)

	8/6(金)	8/7(土)	8/8(日)	合計	割合 (%)
新聞	1	0	0	1	0.1%
ホームページ	54	68	71	193	19.6%
ポスター	4	0	1	5	0.5%
DM	22	27	26	75	7.6%
チラシ	41	54	49	144	14.6%
知り合い	42	110	81	233	23.7%
その他	68	105	76	249	25.3%
無記入	17	50	16	83	8.4%
計	249	414	320	983	100.0%

2. 参加者年齢

	8/6(金)	8/7(土)	8/8(日)	合計	割合 (%)
10代	17	41	48	106	12.2%
20代	61	67	89	217	24.9%
30代	42	78	65	185	21.3%
40代	72	52	35	159	18.3%
50代	42	58	36	136	15.6%
60代以上	14	22	15	51	5.9%
無記入	4	7	5	16	1.8%
計	252	325	293	870	100.0%

3. 参加者職業等

	8/6(金)	8/7(土)	8/(日)	合計	割合 (%)
保健医療関係	66	92	55	213	23.7%
教育関係	54	50	60	164	18.3%
学生	38	61	76	175	19.5%
NGO/NPO	12	34	23	69	7.7%
その他	40	63	51	154	17.2%
無記入	23	68	31	122	13.6%
計	233	368	296	897	100.0%



◆2010年参加者の居住地（都道府県別）

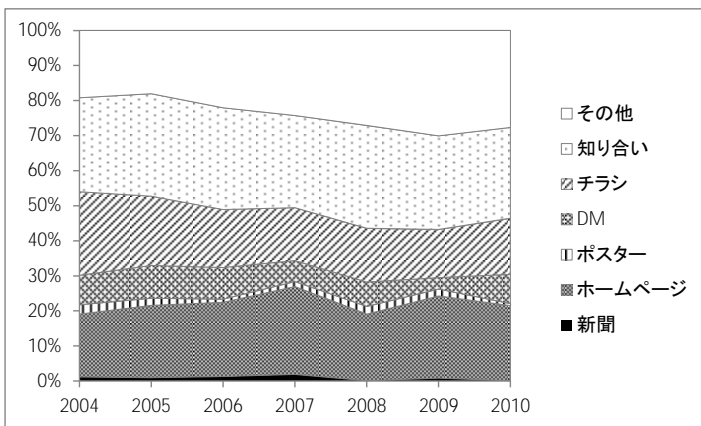
北海道・東北	北海道	青森	秋田	岩手	宮城	福島	山形			小計
8月6日	4									4
8月7日	2					5				7
8月8日	3									3
小計	9	0	0	0	0	5	0	0	0	14
関東	神奈川	東京	千葉	埼玉	茨城	栃木	群馬			
8月6日	110	24	6	8	3		7			158
8月7日	168	64	13	20	1	4	11			281
8月8日	147	32	15	20		5	16			235
小計	425	120	34	48	4	9	34	0	0	674
中部1	愛知	静岡	山梨	長野	新潟					
8月6日	2		4	4	6					16
8月7日	8		2		5					15
8月8日	3		4	2	2					11
小計	13	0	10	6	13	0	0	0	0	42
中部2	三重	滋賀	福井	石川	岐阜	富山				
8月6日	1									1
8月7日										0
8月8日										0
小計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
関西	大阪	和歌山	奈良	京都	兵庫					
8月6日	4		1		1					6
8月7日	6			2	4					12
8月8日	5			4	2					11
小計	15	0	1	6	7	0	0	0	0	29
中国	岡山	鳥取	島根	広島	山口					
8月6日				3						3
8月7日	2			3	1					6
8月8日	3			4						7
小計	5	0	0	10	1	0	0	0	0	16
四国	香川	徳島	高知	愛媛						
8月6日				3						3
8月7日				5						5
8月8日				2						2
小計	0	0	0	10	0	0	0	0	0	10
九州・沖縄	福岡	大分	宮崎	熊本	佐賀	長崎	鹿児島	沖縄		
8月6日				2						2
8月7日	6		2	2						10
8月8日	1									1
小計	7	0	2	4	0	0	0	0	0	13
無記入										無記入
8月6日									17	17
8月7日									25	25
8月8日									18	18
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	60	60
合計	941	240	94	168	50	23	68	0	120	1,704

◆全体集計推移 (2004~2010)

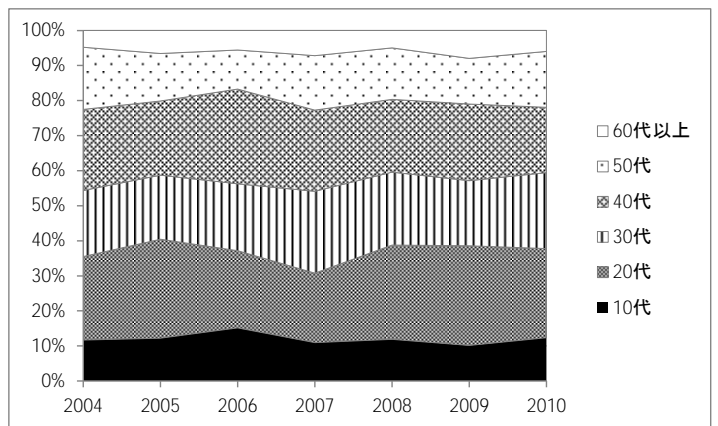
1.AIDS文化フォーラム in 横浜を何で知りましたか？(複数回答あり)

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
新聞	10	10	11	18	2	8	1
ホームページ	153	213	180	238	193	215	193
ポスター	21	21	7	13	22	18	5
DM	71	96	77	57	71	30	75
チラシ	201	204	140	143	156	126	144
知り合い	226	301	246	249	299	245	233
その他	162	186	187	230	276	276	249
計	844	1,031	848	948	1019	918	900

図① 何で知りましたか？



図② 参加者年齢



2.参加者年齢

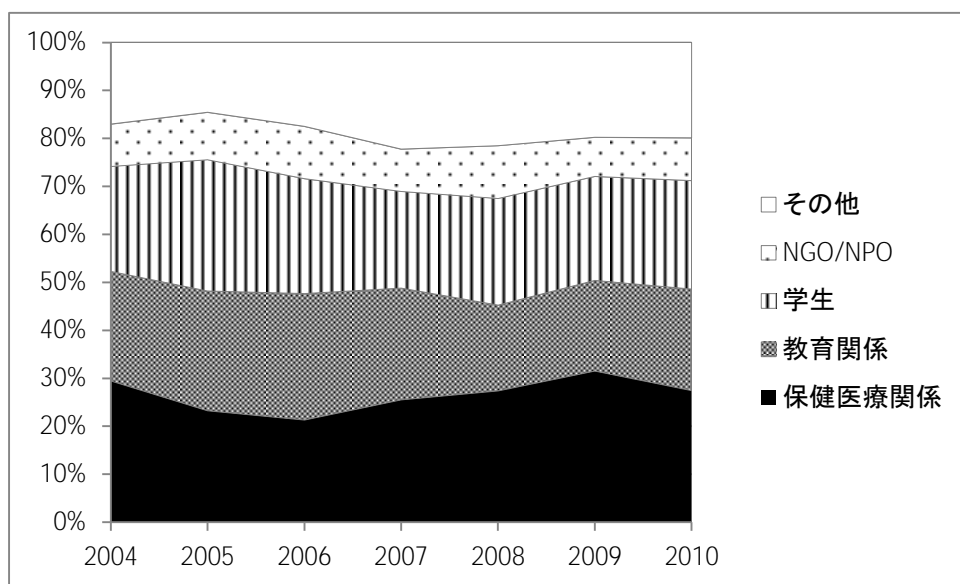
	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
10代	86	112	112	98	113	84	106
20代	174	258	162	176	254	236	217
30代	138	167	140	208	197	154	185
40代	169	193	199	206	196	181	159
50代	130	124	82	138	139	108	136
60代以上	35	60	41	64	47	66	51
計	732	914	736	890	946	829	854



3.参加者職業等

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
保健医療関係	201	203	139	209	242	236	213
教育関係	156	218	172	191	158	142	164
学生	149	239	156	165	196	162	175
NGO/NPO	60	86	71	72	97	61	69
その他	116	127	114	182	190	148	154
計	682	873	652	819	883	749	775

図③ 参加者職業等



AIDS文化フォーラム in 横浜 17回の歩みー開催概要と経緯ー

AIDS文化フォーラムは

「感染経路を問わず、AIDSとそれを取り巻く状況を、多様に、文化の視点で考えていく」

を特徴に17回歩み続けています。

組織委員会:エイズに取り組む団体で構成し、フォーラムの社会的責任を負う

運営委員会:HIV/AIDSに関わる、医療関係者、教育関係者、NPO・NGO、行政の担当者等が個人として参画

事務局:横浜YMCA

ボランティア:会場運営に市民ボランティアの公募ー小学生から70歳代までの幅広い参加ー

かながわエイズボランティア育成講座の受講生のフィールドワーク

08年より会場ボランティアからサポートスタッフに改称。



開催年	回数	テーマ	プログラム数	参加団体数	会場	入場者数	開催日数	話題/社会	来場者傾向
94	1	市民と海外NGOによる AIDS会議	58	40	神奈川県 国際交流協会	4,305	9日間	市民のエイズ会議 国際AIDS会議開催	地元市民 中心
95	2	ともに生きる	31	26		2,200		母親が語る薬害エイズ 薬害報道の増加	
96	3	ともに生きるから連帯へ	34	28		1,600		性風俗とAIDS 薬害/薬害和解	
97	4	未来へのつどい	72	56	かながわ 県民センター	4,607	3日間	映画・秋桜 カクテル療法	全国から 参加
98	5	エンパワメント～ 自立と協働に向けて	76	50		5,694		TV・神様もう少しだけ 障害者認定	
99	6	いまを生きる	70	47		3,240		複数作家の写真展 ピル解禁・感染症予防法	
00	7	いま一人ひとりができること	64	49		3,801		女性プログラム 女性用コンドーム・薬物乱用	医療・教育 の 専門職増加
01	8	いま一人ひとりができること	72	52		3,946		バリアについて考える ハンセン病に学ぶ	
02	9	つながるつながる	81	56		4,808		国際NGO・国際神戸会議 SARS	国際NGO等 幅広く拡大
03	10	AIDSこれまでの10年、 これからの10年	74	55		4,624		10年の振り返り 国際エイズ会議の延期	
04	11	いのち ～市民が続けるAIDSへの取り組み	83	66		6,031		若者の参加 国際エイズ・バンコク会議	
05	12	つながる空間	74	60		5,509		アジア太平洋地区エイズ・ 神戸会議	文化的 側面からの アプローチ 増加
06	13	つながる空間 ～Living Together～	72	56		3,880		第20回日本エイズ学会 (池上千寿子会長)	
07	14	つながる	71	56	3,689	国会議員川田龍平氏来場 かながわレインボーセンター-SHIP が横浜西口OPEN			
08	15	つながる ～いま、私にできること～	75	60	4,170	アフリカ会議横浜で開催			
09	16	他人ごと?!	55	54	3,547	新型インフルエンザ 政権交代			
10	17	他人ごと??	52	52	3,297	猛暑 1ドル80円台			



市民による市民に開かれた手弁当フォーラム!

高額の参加費がかかる医療関係者中心の第10回国際エイズ会議(横浜)に対して、市民のためのエイズ会議を市民の手で実施しようという趣旨で始まりました。



■第1回(1994年) : 社会の中で偏見と差別のみ語られていたAIDSという病気に対し、ボランティアの働きによる新しい市民レベルの社会へのアプローチとして当時高い評価を得ました。

■第2回(1995年)~第3回(1996年) : 「第1回での成果を一過性のものに終わらせること無く、継続して欲しい」という全国のAIDSに関わるNGOや団体からの強い要望があり開催を継続してきましたが、社会的な関心の薄れと共に、参加者数の減少など様々な課題が明らかになりました。

新たな工夫と挑戦へ! ~量から質へのシフト

徹底した評価・検証の中で、より積極的な取り組みを行いました。会場をかわわ県民センターへ変更したことに加え、運営体制の見直し、そして参加者のニーズにあうようにプログラムの充実化を図りました。

■第4回(1997年) : 「PWA (People with AIDS) のネットワーク」をテーマとし、PWA5名がプレゼンターとなり、ネットワークを組むために必要な課題と問題について議論するなど、感染者の方々の積極的な協力がありました。



■第5回(1998年) : HIV/AIDSの治療薬が増え、HIV感染は慢性病になったと言われはじめました。テレビドラマ「神様、もう少しだけ」がヒットし、社会的関心が一気に高まり、主演の深田恭子さんも来場しトークを行いました。

■第6回(1999年) : 1日のコマ設定を4コマから3コマに減らしたことで、各コマとも落ち着いた議論と交流が可能となりました。

専門職来場者の増加~継続することの意味を確認

従来からの「専門職が一般市民を指導・教育・啓発する」という発想を超えて、「市民側から専門職に情報交換の場と市民の手法を学ぶ場を提供していく」というように逆転してきました。全国の医療や教育の専門家からも期待される横浜の夏の恒例行事として定着しました。



■第7回(2000年) : 恋人とのセックスでHIVに感染した北山翔子さんとタレントの岡田美里さんのトーク、女性用コンドーム、ピル、と「女性」をテーマとしたプログラムが多く組まれました。

■第8回(2001年) : パラリンピック金メダリストの成田真由美さんとHIVに感染している桜屋伝衛門さんのトークを通して「障害」という視点でHIV/AIDSの問題を改めて考える機会となりました。

■第9回(2002年) : 自らカンボジアなどでボランティア活動をしている有森裕さんの話に多くの参加者が勇気付けられる内容となりました。

10年の振り返りと新たな取り組み~若者へのアプローチ強化

先進国で唯一エイズ患者が増え続ける日本の状況を憂慮し、若者へのアプローチを強化しました。若者主体の企画や演劇・映像・音楽・アートを活用した、若者を引きつける会場運営を心がけた結果、多くの来場者を迎えることができました。



■第10回(2003年) : 脚本家の早坂暁さんが「HIV/AIDSを題材に番組を制作するとしたら」という設定で、俳優の鳥丸せつ子さんと参加者と共にドラマストーリーを考えました。また、若者の覚醒剤問題に体を張って取り組む水谷修さん(夜回り先生)の講演に多くの参加者が集まり、関心の高さがみられました。

■第11回(2004年) : 飯島愛さんが「HIV/AIDSを題材に番組を制作するとしたら」という設定で、俳優の鳥丸せつ子さんと参加者と共にドラマストーリーを考えました。また、若者の覚醒剤問題に体を張って取り組む水谷修さん(夜回り先生)の講演に多くの参加者が集まり、関心の高さがみられました。

■第12回(2005年) : 飯島愛さんと北山翔子さんがそれぞれの実体験をもとに人を愛すること、そして生きることをテーマに語られた言葉は、来場者の心に深く響きました。また、会場ボランティア数は110名と過去最高でした。

つながる空間、

本音で語る対話の場へ

ネットワークを広げ連携を深めるために、HIV/AIDSに関する様々な活動に携わる団体・個人との対話の場が増えました。その中で宗教や立場・活動・体験は違っても、豊かに共に生きることを教えられ、「つながる」ことの大切さを確認することができました。

■第13回(2006年) : 「エイズと宗教を語る」では、仏教、キリスト教、HIV陽性者の3者がそれぞれの立場から違いを超えて「つながる」ことの大切さを語りあいました。また、参加者から発表者となった医大生の遠見才希子さんがPeer講座を担当するなど若者の活躍がみられました。

■第14回(2007年) : 3名のHIV(+)の当事者がそれぞれの主治医とともに、患者と医療者の関係性(パートナーシップ)をテーマに語り合いました。長年にわたるエイズ医療に共に取り組むためにはコミュニケーションやカウンセリングを通して信頼関係を構築することが重要であると訴えました。

つながることで「他人ごと意識」の解消へ

■第15回(2008年) : 近年高まっている教育関係者のニーズに応え15もの教育を視点としたプログラムが開催されました。中でも学校でのエイズ教育を念頭においたセッションをエイズ教育シリーズと紹介し、最終日には「徹底討論~エイズ教育に求められるものは何か」を開催しエイズ教育に関わる来場者と本音で意見を交わしました。

■第16回(2009年) : 正しい知識だけでは予防ができません。HIV/AIDSを他人事(ひとごと)と思っていた当事者たちの声に耳を傾け、医療関係者が、教育関係者が、宗教関係者が、そして参加者の一人ひとりがつながる中で、自分自身の課題と考える第一歩を踏み出しました。

■第17回(2010年) : 長年、AIDS文化フォーラム in 横浜を支えてくれているパトリックさん、北山翔子さん、洪久夫さん、桜屋伝衛門さんをはじめ多くの当事者の皆さんに励まされ、妊娠時にHIV感染がわかった石田心さんが主治医とのトークセッションを持ってくださいました。閉会式は5年前のフォーラムでピアエデュケーションに目覚め、今や全国を飛び回っている遠見才希子さんが、医学生最後の年に司会を務めてくれました。他人事意識を克服するため、多くの人が「つながる」ことで、一歩ずつ「他人ごと」が「自分ごと」に代わっていくことを期待させるフォーラムへと変わってきています。

このつながりの中で出会えた素敵な人たちに感謝!!



2010 AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち

■主催 AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会

HIV/AIDS問題に取り組む団体の代表者で構成されています。「AIDS文化フォーラム in 横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

構成団体:

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| ◇(財)横浜YMCA 田口努 (組織委員長) | ◇(社福)横浜いのちの電話 榑原高尋 |
| ◇横浜商工会議所 エイズ問題対策懇談会 古田正一 | ◇カトリック横浜教区 古川勉 |
| ◇(財)横浜YWCA 小阪仁美 | ◇ワイズメンズクラブ国際協会東日本区 林茂博 |

■共催 神奈川県

毎年、共催として会場「かながわ県民センター」を提供しています。また、組織委員会、運営委員会にも列席し、関係者への参加依頼や広報をはじめとした事前準備にも協力しています。

担当:神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課 金井信高 川上亮 滝田由紀子 中西亮太 内田和子

■協力

- ◇飲料:(株)東京キリンビバレッジ、(株)ジャパンビバレッジ
- ◇寄付:萬有製薬株式会社、神奈川県化粧品工業協会、神奈川県製薬協会、鳥居薬品株式会社、相模ゴム工業株式会社

■後援

- ◇横浜市健康福祉局 ◇川崎市 ◇相模原市 ◇横須賀市 ◇藤沢市 ◇横浜商工会議所
- ◇神奈川県教育委員会 ◇財団法人エイズ予防財団 ◇ワイズメンズクラブ国際協会東日本区

■企画運営 AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

フォーラムを実質的に運営するボランティアの集まりです。医師、保健師、教師、NGO/NPO関係者、アーティスト、大学生、共催・後援(行政)の担当者、フォーラム大好きでずっと関わりを持っている人など、色々な立場の人がフォーラム開催に向けて年間を通し活動しています。

伊東和子 猪谷亜子 岩室紳也 岩本雅子 遠見才希子 大江浩 岡島龍彦 糟谷潤 金井多恵 多田由香里
千代木ひかる 長澤勲 畠山雅行 彦根倫子 母袋秀典 八木下しのぶ 矢部尚美 山田雅子 吉永陽子 渡辺誠二
渡會睦子

■サポートスタッフ(会場ボランティア)

最年少は13歳(中学1年生)から社会人までの幅広い世代がサポートスタッフとしてフォーラム当日の会場運営を支えてくださいました。

石井志津 井筒幸乃 池田紗和子 奥津純世 大田圭 小川雄 熊澤祐紀 齋藤歩 齋藤志津江 斉藤富江
白幡路子 関口まさふみ 高野沙織 田口健太郎 中島大輔 中嶋真理奈 中村力 林あゆみ 畠山雅貴 本田愛
古川英司 室伏さや 守屋久美子 吉岡咲紀 吉永千尋 他合計50人 ありがとうございます!

■事務局 横浜YMCA

組織委員会、運営委員会の円滑な運営、年度を超えての継続的な開催を補佐します。

17年前にフォーラムを立ち上げる際の呼びかけ人となった横浜YMCAが継続して事務局を務めています。

担当:横浜YMCA 国際・地域事業 高村文子 三宅晶子

「AIDS文化フォーラム in 横浜」組織委員会規約

1. 名称

この会は「AIDS文化フォーラム in 横浜 組織委員会」と称する。
(以下、「組織委員会」と略す)

2. 趣旨

1994年8月に横浜で開催された第10回国際エイズ会議を機に、市民の手による全ての人に開かれた場として「AIDS文化フォーラム in 横浜」を開催してまいりました。回を重ねていく中で、全国各地でHIV/AIDSに取り組む各団体・個人の発表・交流の場として、また多くの市民、特に若い人々に向けての啓発の場として定着してまいりました。組織委員会は、このフォーラムの主催者として、偏見や差別をなくし、制度や利害の壁を乗り越えて、いつの時代にも、だれもが一人の人間としての尊厳を保ち、共に生きていく世界を築く事を目指して、市民の手による、市民のための、すべての人に開かれた集いを開催します。

3. 目的

- 1) 広く市民に開かれたフォーラムとする。
- 2) 若い世代、特に学生の参加を期待して、工夫する。
- 3) すべてがボランティアによる、市民の手による、市民のための、手弁当型のフォーラムとする。
- 4) AIDSボランティアと市民の交流の機会とする。
- 5) AIDSに日ごろから関係する団体やグループがフォーラムの進行をリードする。
- 6) AIDS関係団体、グループのネットワーク形成・交流の機会とする。
- 7) AIDSに関する多面的な啓発活動を行う。
- 8) AIDSについて、医学面や政策面のみではなく、文化面から積極的に捉える。
- 9) AIDSへの様々な取り組みの中で、一人ひとりが共に生き、連帯し、未来への希望をつなぐために力をつける(エンパワーメント)集いとする。

4. 構成

組織委員会は、エイズ問題に関心を持つ諸団体の代表者で組織する。

5. 委員長

委員長は、組織委員会の中から互選により選出し、組織委員会を代表する。

6. 組織委員会の開催

組織委員会は年4回、委員長の招集により開催する。また、必要に応じて委員長が必要と認めた場合に開催することができる。

7. 組織委員会の役割

「AIDS文化フォーラム in 横浜」開催の主催者となり、このフォーラム開催に関して最終責任を負う。

8. 運営委員会の設置

組織委員会の下に運営委員会を設置し、フォーラムの企画運営を委託する。組織委員会は運営委員会の働きを監督、支援する。運営委員は、HIV/AIDS問題及びフォーラムに関わるボランティアメンバーの中から選出する。

9. 事務局の設置と役割

組織委員会の事務局を横浜YMCA内に設置する。

常設の事務局を横浜YMCAに設置し、スタッフ2名が担当する。

事務局の役割は次の通りとする。

- 1) 組織委員会・運営委員会との連絡調整を行い、フォーラムの円滑な運営を助ける。
- 2) 予算を管理する。
- 3) 年度を越えての継続的な開催を補佐する。

10. 財政

フォーラムの運営に必要な経費は、組織委員会主催(運営委員会へ委嘱)の事業収益・寄付金、助成金及び組織委員会を構成する団体からのキーマネーをもってまかなうものとする。年度のキーマネーは、1団体につき20,000円とする。

11. 年度及び任期

組織委員会の年度は毎年4月から翌年3月までとする。

組織委員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。なお次年度の委員については、当年度最終の委員会で選出する。

12. その他

この規約に定めるものの他、組織委員会の運営に関して必要な事項は組織委員会の議を経て定めるものとする。

(付則) この規約は、2008年4月7日から施行する。

<参加団体名称・索引>

◆名称順

アジアの女性と子どもネットワーク ……P22、42

アーニ出版「性を語る会」 ……P10、42

安藤晴敏&岩室紳也 ……P33

石田心&岩室紳也 ……P16

岩室紳也 ……P39

ウィメンズクリニック・かみむら 上村茂仁 ……P32

エイズを伝えるネットワーク(TENCAI) ……P26

エイズ予防のための戦略研究MSM首都圏グループ ……P48

遠見才希子 ……P13、17

神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課 ……P9、27、28、51

神奈川県立舞岡高等学校 茶道部 ……P47

かながわレインボーセンターSHIP(横浜Cruiseネットワーク)・P25

カリタスジャパンHIV/AIDSデスク ……P44

北山翔子 ……P8

劇団プレイバックーズ ……P7、13

県立横浜平沼高校+岡島龍彦(H.I.Voice Act) ……P34、35

高校生エイズフォーラムKANAGAWA ……P15

厚生労働科学研究エイズ対策研究事業和田班 ……P29

(財)日本ユニセフ協会神奈川県支部 ……P46

チーム・サクラヤ ……P24

てのひら～人身売買に立ち向かう会 ……P37、44

特定非営利活動法人エンパワメントかながわ ……P12

富岡順子 佐野恵美 ……P9

ニバルレキレ事務局 ……P30、47

日本ハビタット協会 ……P45

パトリック&紳也 ……P14

星野貴泰 ……P19

洪久夫 & 古川潤哉& 岩室紳也 ……P23

水谷修 ……P38

南アチャリティ実行委員会 韓徳 ……P17

薬害エイズを考える山の手の会 ……P24

横浜AIDS市民活動センター ……P46

横浜市立市民病院 感染症科 立川夏夫 ……P28

横浜市立樽町中学校演劇部+H.I. Voice Act ……P18、19

横浜YMCA ……P29、48

ワイズユースクラブ横浜-Y3 ……P31

ワト・ジャパン ……P30、45

◆アルファベット団体名

ABCD in NARA ……P43

AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会 ……P20

AIDS文化フォーラムボランティアOB有志 ……P36

ATAC in NARA ……P43

HAATAS ……P23

JOINT HEART ……P11

NGO-労働組合国際協働フォーラム ……P25

NPO法人AIDSネットワーク横浜 ……P22

NPO法人子宮頸がんを考える市民の会 ……P49

PHILIP+/ロージナの会 ……P31

PNY・性問題対策を考える保健師の会 ……P26、27

YMCA ACT ……P36



2010 (第17回) AIDS文化フォーラム in 横浜 報告書

発行日： 2010年11月20日
 発行者： AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会
 編集： AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会
 イラスト協力： もたいひでのり
 連絡先： AIDS文化フォーラム in 横浜事務局
 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA内
 Tel： 045-662-3721
 Fax： 045-651-0169
<http://www.yokohamaymca.org/AIDS/>

次回予告

「第18回AIDS文化フォーラムin横浜」

期間： 2011年8月5日(金)～7日(日)

会場： かながわ県民センター

(横浜駅西口徒歩5分)



..... あなたも参加しませんか?

○参加団体として！

HIV/AIDSに関する視点をもった内容であれば、どなたでもご参加頂けます。講演・ワークショップ・展示・演劇など、発表の形式は自由で、例年多くの団体が教育・若者・国際・PWA/H・医療といった多様な切り口から発表を行っています。毎年4月頃からホームページやチラシ等でご案内しています。(※フォーラムの趣旨に沿わないと判断した場合は、お断りしています。このフォーラムにおける政治・宗教活動、営利目的、古い因習や差別的考えに基づいた活動はお断り致します。)

○サポートスタッフとして！

会場ボランティア改め「サポートスタッフ」として、フォーラムに参加しませんか？小学生から社会人の方まで、幅広い年齢層の方々がフォーラムの開催を支えています。募集は毎年5月頃からホームページやチラシ等でご案内しています。

詳細はホームページをご覧ください！

<http://www.yokohamaymca.org/AIDS/>